

令和元年度

外部評価委員会報告書

久留米工業高等専門学校

まえがき

久留米工業高等専門学校長 三 川 譲 二

久留米工業高等専門学校外部評価委員会は、前身の「自己点検・評価協力者会議」（平成4年度設置）、「外部評価協力者会議」（平成14年度設置）の後を受けて、平成18年度から現在の形となり、活動を継続しております。そして、これまで、外部評価委員の皆様から本校の教育・研究、学校運営に関して様々でかつ貴重なご指摘やご意見を賜り、その都度、それらを学校運営の改善に役立たせていただいております。

令和元年度の外部評価委員会では、黒木企画主事より前年度の指摘事項に関する本校の取組について報告させていただいた後、令和2年度に受審予定の機関別認証評価の評価項目毎の取組状況について、各担当者から説明を行います。

私どもがもつ教育の公共性・社会性に鑑みますと、外部の有識者の皆様からのご指摘やご意見に謙虚に耳を傾けることは至極当然のことであり、かつ、学校運営上においても欠くことができないことでもあります。また、今回の外部評価委員会においていただいた芳しいご評価についてはそれを励みとし、問題点のご指摘についてはそれを真摯に受け止め、いずれをも本校の学校運営と教育・研究の継続的な改善に役立たせていただく所存であります。

また、本外部評価委員会報告書は、外部に公開し、本校の学校運営の透明性を担保するという課題にも応えて参りたいと存じております。

外部評価委員の皆様におかれましては、久留米高専の教育・研究、学校運営について、引き続き忌憚のないご指摘・ご意見を賜ることができれば幸いです。

結びに、ご多用中のところ、令和元年度外部評価委員会にご臨席賜りました外部評価委員の皆様には厚く御礼申し上げます。とりわけ、外部評価委員長として議事進行とご講評の取りまとめ等の労をお取り下さいました九州大学大学院工学院院长久枝良雄先生には深く感謝申し上げます。

目 次

まえがき

| | |
|---------------------------------------|----|
| 1. 外部評価委員会委員名簿 | 4 |
| 2. 外部評価委員会出席者名簿 | 5 |
| 3. 外部評価委員会規程 | 6 |
| 4. 外部評価委員会日程 | 7 |
| 5. 開会挨拶 | 8 |
| 6. 委員紹介 | 8 |
| 7. スケジュール説明及び資料確認 | 8 |
| 8. 議長選出 | 8 |
| 9. 議事 | |
| (1) 前年度の指摘事項について | 8 |
| (2) 令和2年度に実施する高等専門学校機関別認証評価について | 11 |
| (3) 質疑応答 | 11 |
| (4) 講評 | 15 |
| 10. 閉会挨拶 | 16 |
| 11. 外部評価の結果 | 17 |
| (1) 評価点 | 17 |
| (2) 意見・提言 | 18 |
| 12. 説明資料 | |
| (1) 前年度の指摘事項について（企画主事） | 21 |
| (2) 令和2年度に実施する高等専門学校機関別認証評価について（企画主事） | 44 |

久留米工業高等専門学校外部評価委員会委員名簿

令和元年12月 現在
(敬称略)

| 氏 名 | 所 属 | 職 名 |
|---------|----------------|------------------|
| 久 枝 良 雄 | 九州大学 | 大学院工学研究院長 |
| 中 島 英 治 | 九州大学 | 大学院総合理工学研究院長 |
| 永 田 見 生 | 久留米大学 | 学 長 |
| 今 泉 勝 己 | 久留米工業大学 | 学 長 |
| 坂 本 満 | 産業技術総合研究所 | 上席イノベーションコーディネータ |
| 中 島 年 隆 | 久留米市 | 副 市 長 |
| 入 江 智 祐 | (株)ブリヂストン | 九州生産本部長兼工場長 |
| 中 川 修 三 | 大電(株) | 総務部長 |
| 西 田 正 典 | 久留米市中学校長会 | 会長(市立諏訪中学校長) |
| 平 田 敬一郎 | (株)久留米リサーチ・パーク | 常務取締役 |

令和元年度外部評価委員会出席者一覧

(敬称略)

外部評価委員

| | | |
|-----|---------|---|
| 委員長 | 久 枝 良 雄 | 九州大学大学院工学研究院長 |
| 委員 | 中 島 英 治 | 九州大学大学院総合理工学研究院長 |
| 委員 | 荒 井 功 | 久留米大学副学長 (永田見生 久留米大学長代理) |
| 委員 | 今 泉 勝 己 | 久留米工業大学長 |
| 委員 | 坂 本 満 | 国立研究開発法人産業技術総合研究所上席インベーションコーディネータ |
| 委員 | 中 島 年 隆 | 久留米市副市長 |
| 委員 | 富 澤 章 | 株式会社ブリヂストン久留米工場九州生産本部総務部長 (入江智祐 九州生産本部長兼九州工場長代理) |
| 委員 | 平 田 敬一郎 | 株式会社久留米リサーチ・パーク 常務取締役 |

以上 8名

学校側参加者

| | |
|----------------------|---------|
| 校 長 | 三 川 讓 二 |
| 教務主事・副校長 | 江 崎 昇 二 |
| 専攻科主事・副校長 | 奥 山 哲 也 |
| 学生主事・校長補佐 | 田 中 大 |
| 寮務主事・校長補佐 | 中 篤 裕 之 |
| 企画主事・校長補佐 | 黒 木 祥 光 |
| 機械工学科長 | 石 丸 良 平 |
| 電気電子工学科長 | 越 地 尚 宏 |
| 制御情報工学科長 | 小 田 幹 雄 |
| 生物応用化学科長 | 梶 隆 彦 |
| 材料システム工学科長 | 川 上 雄 士 |
| 一般科目（文科系）学科長 | 安 部 規 子 |
| 一般科目（理科系）学科長 | 酒 井 道 宏 |
| 図書館長 | 富 岡 寛 治 |
| 総合情報センター長 | 加 藤 直 孝 |
| 産学民連携テクノセンター長・校長特別補佐 | 中 武 靖 仁 |
| 学生相談室長 | 福 田 かおる |
| キャリア支援室長 | 池 田 隆 |
| 事務部長 | 寺 田 浩 一 |
| 総務課長 | 世 利 政 則 |
| 学生課長 | 前 田 俊 哉 |

以上 21名

久留米工業高等専門学校外部評価委員会規程

(平成16年7月23日制定)

(設置)

第1条 久留米工業高等専門学校(以下「本校」という。)に学外の有識者による外部評価委員会(以下「委員会」という。)を設置する。

(目的)

第2条 委員会は、校長が付託する事項について検証、評価を行ない、本校の教育・研究の改善に資するため、提言を行なうことを目的とする。

(組織)

第3条 委員会は、本校の振興発展に関心と理解のある学外有識者のうちから、校長が委嘱した委員をもって組織する。

2 委員の任期は2年とし、再任を妨げない。なお、委員の職にある者が任期中、転退職した場合、後任者が引き継ぐものとする。この場合、委員の任期は前任者の残任期間とする。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置き、校長が委嘱する。

2 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

(報告)

第5条 委員会は、第2条の検証、評価が終了したときは、評価の結果を校長に報告するものとする。

(事務)

第6条 委員会の事務は、総務課総務課長補佐(総務担当)において処理する。

附 則

この規程は、平成16年7月23日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年6月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

令和元年度外部評価委員会日程

| | |
|-------|--|
| 日 時 | 令和元年12月13日(金) 13:20～16:00 |
| 場 所 | 久留米工業高等専門学校 大会議室 |
| 13:20 | 開 会 |
| 13:20 | 開会の挨拶 |
| 13:25 | 委員の紹介及び進行スケジュールの説明 |
| 13:33 | 議長選出 |
| 13:35 | 議 題 |
| | (1)「前年度の指摘事項について」(企画主事) |
| | (2)「令和2年度に実施する高等専門学校機関別認証評価について」(企画主事) |
| 14:25 | 休 憩 |
| 14:40 | 全体質疑 |
| 15:10 | 講評まとめ |
| 15:40 | 講 評 |
| 15:55 | 閉会の挨拶 |
| 16:00 | 閉 会 |

開 会 挨拶

三川校長：外部評価委員の皆様におかれましては、ご多用中のところ、ご出席を賜り、厚く御礼申し上げます。

私どもが所属しております国立高等専門学校機構におきましては、今年度より第4期中期目標・中期計画の期間に入りました。その中において、高専教育の高度化と国際化を2つの柱として掲げ、運営を進めているところであります。

外部評価委員会委員の皆様には、毎年度、本委員会を通じて貴重なご指摘、ご評価を賜っております。このことについて、非常に有り難く存じております。皆様のご指摘、ご評価を本校の学校運営に生かしてまいりたいと考えているところでございます。

本日は、前年度の指摘事項についての改善報告に加えまして、来年度に久留米高専が受審すべく準備を進めております機関別認証評価について、予め皆様からのご指摘を賜ることが出来ればと考えております。

それでは、限られた時間ではございますが、外部評価委員会委員の皆様から忌憚のないご指摘とご評価を賜ればと存じます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

委 員 紹 介

世利総務課長から外部評価委員の紹介が行われた。

スケジュール説明及び資料確認

世利総務課長から本日の外部評価委員会のスケジュールの説明と配付資料の確認が行われた。

議 長 選 出

久留米工業高等専門学校外部評価委員会規程第4条第2項の規定に基づき、外部評価委員会委員長である久枝九州大学大学院工学研究院長が議長に選出された。



議 事

(1) 前年度の指摘事項について

久枝委員長：議長を仰せつかりました九州大学大学院工学研究院長の久枝でございます。どうぞよろしくお願いいたします。早速、議事進行を務めてまいりますので、ご協力のほどよろしくお願いいたします。それでは、日程表に沿って議事を進めさせていただきます。まず、議題の1「前年度の指摘事項について」ということで、黒木企画主事からご説明のほど、お願いいたします。

(黒木企画主事から、資料「前年度の指摘事項について」(P 21～P 43)に基づき説明)



【質疑応答】

久枝委員長：どうも有り難うございました。何かご意見、ご質問等はありませんでしょうか。

久枝委員長：委員の方々より特にございませんようでしたら、私の方からで恐縮ですが質問いたします。女子学生獲得に関する取組について、久留米高専では実績が上がっており羨ましく思っております。九州大学工学部でも様々な取組を行っているにも関わらず、女子学生比率がなかなか上がらずに苦勞しています。そこで質問なのですが、ご説明の中で「キラキラ高専ガールになろう！」という取組がありましたが、これは久留米高専で独自に行っているものでしょうか。あるいは高専全体でされていることでしょうか。女子学生獲得については、イメージも大事だと考えています。

江崎教務主事：これは、高専機構が作成したパンフレットで、全高専に配付されており、久留米高専においては、学校説明会や中学校訪問時などにおいて配付する形で広報に使用しているものです。実際にそれが功を奏しているかについての定量的な計測が出来ている訳ではありませんが、地道に続けていることが、女子学生の獲得実績に繋がっている可能性はあります。

久枝委員長：中学校への訪問時は、学生全員に配付されているのですか。また、中学校毎に何部ずつ配られていますでしょうか。

江崎教務主事：学生全員にではなく、1つの中学校に数枚程度を持参し、教室などに掲示してもらっております。持参する数は、そんなに多くありません。

三川校長：本件について補足いたしますと、高専機構全体で見たときには、女子中学生のみを集めてイベントなどを行う高専もあるのですが、久留米ではそのような取組は行っておりません。また、九州沖縄地区におきましては、今年9月に高専女子フォーラムというものを開催いたしまして、女子学生の研究や課外活動などをパネル発表するような場を設けたりする取組を行っております。

そういった取組に参加はしておりますが、久留米高専として、特段の女子中学生向けの取組を行った、というわけではございません。結果として女子入学生増加があった、という状況でございます。

久枝委員長：少子化社会により学生数が減少する中で、男子学生のみではなく、女子学生の確保というものは重要な事と考えております。この取組については、大学でも参考にさせていただきたいと思っております。有り難うございました。

委員の方々より、何か他にご意見はございませんでしょうか。

荒井委員：グローバル人材育成教育プログラムについてご報告いただいたのですが、大学でもよく言われますのが、プログラムの成果や効果の検証となるわけですが、その点について、久留米高専ではいかがでしょうか。



また、PDCAサイクルについては、自己点検評価点検書の項目のみに基づくのか、それ以外に久留米高専としての中長期的な観点での計画もされているのか、併せてお伺いします。

黒木主事：まず一点目の成果や効果の検証について、でございますが、実際には定量的計測は出来ておりません。しかしながら、募集要項には参加前と参加後の TOEIC 点数について学生に報告するように提示しておりますので、そういった点において、ある程度の効果計測が可能だと考えております。

また、傾向としましては、一度海外に行った学生は、次もまた行きたいと考える者が多く、グローバルマインドの醸成という面において、効果が高いと考えております。

また、PDCAサイクルについてですが、企画委員会という委員会は、校長を始めとする5主事、学科長なども参加している委員会であり、年度毎に、学校全体で何をしていくのかを決める委員会となります。また、基本的には高専機構より年度計画が提示されておりますので、それにも対応していくこととなります。加えて、前年度からの持ち越し案件もございます。そういった点において、ある程度の中長期的な観点も含まれると考えております。

荒井委員：一点目については、学生の取組姿勢の変化や、語学力の向上を見られている、ということでしょうか。

黒木主事：はい、そのとおりです。

奥山主事：補足いたしますと、グローバル人材育成教育プログラムは本科よりも専攻科で先に取り組んでおりまして、報告書を学生に書かせており、どのような効果があったかを記載させているところです。

その中で、黒木主事からもご報告ありましたとおり、学生本人の海外に対する考え方の変化や、TOEIC の点数が 400 点台だった学生が 500 点台になる、また、TOEIC 受験の回数が増える、といった変化が見られております。

今泉委員：グローバル人材育成教育プログラムについてですが、単位互換などは想定しておられるのでしょうか。また、期間についてはどのくらいで行われているのでしょうか。

黒木主事：まず、期間としましては、実質一週間程度です。どちらかという、海外渡航のきっかけを与えるような形で行っております。また、JASSO 協定校派遣については、本年度初めて申請しましたが、来年度以降の申請については1ヶ月未満では申請が出来なくなるため、期間延長を検討する必要があり、その際に単位互換も合わせて検討の必要があると個人的には考えております。

三川校長：単位互換については、学校としましては現状では検討段階にございません。しかしながら、先日行いましたタイへの本校学生派遣においては、先方学校より研修修了証のようなものを学生個人に対していただいております。逆の場合も同様に、海外からの学生を受け入れた場合には、本校から研修修了証を渡しております。単位互換までは至っておりませんが、そのような状況でございます。

また、タイのキングモンクット工科大学とは協定を結んでおり、本校専攻科2年生で登録し、先方の修士課程で1年学ぶとマスターが取れるようなものとなっております。これは単位互換に近いものとなります。

なお、別の補足ですが、昨年度の外部評価委員会において、自己評価点検書における項目が多すぎるが、重点的な取組は行われていないのか、というご指摘をいただいていたかと思いますが、実際には年度当初に校長が「学校運営の課題と基本方針」を作成し、運営委員会において審議のうち重点的に対応しており、400項目以上の全てについて等しく対応しているという訳ではございません。

久枝委員長：本件について、まだまだ質疑があるかと思いますが、後ほどの全体質疑の時間にて再度お伺いする事といたします。

(2) 令和2年度に実施する高等専門学校機関別認証評価について

久枝委員長：それでは、続きまして、議題2でございますが、「令和2年度に実施する高等専門学校機関別認証評価について」ということで、黒木主事からご説明をお願いいたします。

(黒木企画主事 外各担当者から、資料「令和2年度に実施する高等専門学校機関別認証評価について」(P44～P123)に基づき説明)



【質疑応答】

久枝委員長：どうも有り難うございました。本来はこのまま質疑応答となりますが、スケジュールが押しておりますので、10分間の休憩時間を挟んだ後、再度質疑応答を始めさせていただきたいと思っております。

(10分間の休憩後、再開した)

久枝委員長：それでは時間となりましたので、再開させていただきたいと思っております。先ほどの議題2について、ご質問等ございましたらお願いいたします。

坂本委員：様々なポリシーに合った学生を募集することや、カリキュラムの作り方などにも関わってくると思われますが、より全国的な企業のニーズとマッチングした学生を輩出していくことも大事かと思っております。そこで、例えば久留米高専OBとなって5年や10年が経過し、企業の中堅となった方からアンケートを取られたりはされていますでしょうか。

黒木主事：まさにおっしゃるとおりですが、体系的に本校委員会ですういったアンケートを取る、ということが難しく、十分な対応出来ているという訳ではありませんが、現在、各専門学科での取組

について確認をしている状況でございますので、実際の機関別認証評価ではそれを提出する予定でございます。

久枝委員長：今の質問と関連するのですが、久留米高専では選択的評価事項において、地域貢献という事で選択されていますけれども、昨年度の外部評価委員会の中で、高専からの卒業生がどのくらい地域に就職しているのか、また高専の役割としては地域への就職率を上げていくべきではないか、という意見があったかと思えます。

回答では、3割程度が地域への就職であったかと認識していますが、これは個人的には地域に非常に貢献していると思えますが、ここは機関別認証評価の項目において、強みとして説明する必要はないのでしょうか。

黒木主事：地域への就職という観点でお答えしますと、本校の技術振興会でありますテクノネット久留米の会員企業様には、本校において企業説明会を開いていただき、学生に地域の企業を知って貰うという取組を行っており、そこから実際に就職に繋がったという事例はございます。しかし、認証評価項目としては入っておりませんので、特段の説明は考えておりません。

富澤委員：学生からのニーズの把握という部分ですが、学生からのニーズ把握のための実施項目が三つ書かれておりますが、ここはもう少し具体的なアクションまで踏み込んで、詳細に書くべきかと思えます。実際にはどのような事を行われているのでしょうか。



三川校長：小森野トーク with プレジデントですが、昨年度より実施しており

まして、今年度2回目となります。各クラスの級長、学生会、寮生会の各代表者と校長が参加し、学校側の記録者として学生課職員にも参加してもらっております。事前に要望等を用意してもらい、その場で答えていくような形にしております。これについて、学生側と学校側の双方で議事録を確認した上で、クラスにフィードバックすることとしています。また、その中でも学校運営上、重要なものについては、校長から担当教員や事務に対応依頼を行っております。

意見箱については、本校ウェブサイト上に設置しており、保護者の方からが多いのですが投書があり、それに答えるような形で対応しております。このように、学校として対応している状況でございます。

(ここで、黒木企画主事より機関別認証評価の自己評価書の構成について、資料「高等専門学校機関別認証評価(自己評価書)様式」を基に具体的な回答作成手順について説明が行われた)

田中主事：学生会と学生主事室による毎月の合同会議につきましては、各行事などの要望等について確認し、学校として対応する作業を行っております。

今泉委員：基準1の就職・進学先関係者からのアンケート回答という部分については、どのくらいの回答があれば、学校として満足する回答率であるとお考えでしょうか。

池田室長：なかなか実際には回収が難しいところで、回答数の増加対応に苦慮している所です。

江崎主事：卒業時点に学生にアンケートを取ることは容易です。しかしながら、就職後の学生と企業担当者からのアンケートについては、実施タイミングは学科の判断にお任せしていますが、回収率という面では、基準がないので回答が難しいです。

三川校長：現状として5%程度の回答率と記憶しております。決して高くはないと感じています。

今泉委員：教員の構成ですが、例えば学生が急に増えたからといっても、そう簡単に教員を増やすこ

とは難しいと考えますが、非常勤の教員を増やすことは比較的自由に出来るのか、あるいは予算的に縛られているのか、お伺いしたいのですが。

三川校長：非常勤教員の採用も含めて予算的に非常に難しいところです。高専機構においても配分の基準がございますので総額でやりくりすることが難しいと感じています。また、他方では設置基準もございます。専門学科は最低7名以上、一般学科は11名以上で本校では文科・理科合わせて二学科により、22名以上、という基準となっております。現状では各学科10名程度に調整していますが、それより下げるとは現実として難しく、給与ベースの配分などを含めて機構本部と調整しているところでございます。

今泉委員：私学の場合は、1.3倍近くまで学生の定員オーバーが、認められない訳ではないが、高専では定員オーバーはどこまで認められているのか。

三川校長：本科については、設置基準を常に意識しているため定員の1.0倍に近い数字で推移しています。但し、専攻科については設置基準がありませんので、募集定員に対して2倍程度までは受け入れているのが現状でございます。

久枝委員長：今の質問の件ですが、専攻科の場合は2倍になっても収容定員やスペース等の関係で問題は無いのでしょうか。基準がないとはいえ、物理的に学生が入れるのか気になります。

奥山主事：全国の高専どこでも、やはり2倍までが目安のようです。その一つの理由としましては、特例適用専攻科の場合については、学習総まとめ科目を指導する教員数が限られており、教員一人当たり学生3名くらいまでが限度となり、そうすると募集定員の2倍が限度と考えられるためです。

久枝委員長：2倍を超えた場合、ペナルティはあるのでしょうか。

三川校長：本校専攻科の場合については、全国でも例がないほど高い進学率となっております。これは、久枝先生にもご尽力いただいておりますが、九州大学への進学が出来ることが大きな影響があると考えております。そういったなかで、他の高専では、ここまで進学率が高いところはないのが実情であります。

久枝委員長：大学においては学部定員が厳しく制限されておりまして、制限を超えた場合などに、学部だけでなく、大学全体で概算要求ができなくなるほど定員管理が厳しいのですが、大学院についてはオーバーする部分についてはあまり問題がない、という状況です。参考になりました。

三川校長：高専の場合は、定員割れが厳しく指摘されますが、本校の本科の場合は今のところ定員割れは起きておりません。専攻科については、各高専により状況がバラバラであり、定員割れがある高専や、本校のように2倍以上の志願倍率があるところもございます。

久枝委員長：これに関連して、教員の数ですが、基準2において教員の女性比率が示されておりますが、若手の40歳未満の割合については20%程度となっております。文科省では現在30%程度を大学に要求しておりますが、これについて高専については特に文科省から要望などはないのでしょうか。

三川校長：本来としましては、定年退職の教員が出た後に若い教員を採用するというサイクルが理想なのですが、どのような分野に強い先生に来ていただくか、経歴はどうか、などを考慮した場合、なかなか適任者を探すことが難しいこと、それと専門分野においては若い教員からの応募が少ないため、適切な人材を確保することが厳しくなることなどが挙げられます。

中島(英)委員：認証評価項目4-2-④ 外部の教育・研究資源の活用における、九州大学との大学—高専連携教育プログラムの構築や、九州地区9高専との九州大学との連携については、認証評価において高く評価されるのか、お伺いしたい。

奥山主事：今回の認証評価で初めて提出する案件であるため、どの程度の評価を受けるかは不明です。しかしながら、全国の高専でも、総合大学との連携はなく、注目度は高い項目であることは間違いありません。また、地域連携や国際化も含む内容であるため、内容の説明によっては、高い評価を受ける可能性があると考えております。

三川校長：政府がすすめております、society5.0 と合致する部分もあり、評価される部分は多いと考えております。但し、まだ認証評価における本項目は準備段階であるため、これから書き方を検討していくこととなります。

高専だけではできない教育、あるいは大学だけではできない教育について、本プログラムを基とした新しいものができることを学校としては期待しております。

黒木主事：認証評価における書き方でございますが、特記事項として自由記載がございますので、上記のような内容を主張できればと考えております。

中島(年)委員：カウンセリング体制についてですが、暦年の相談件数などを掲示されておりますが、可能であれば、相談内容について具体的にご教授願いたいのですが可能でしょうか。久留米市としても様々な学生のケアを行っていく必要性を検討しております。

福田室長：手許に資料を持ち合わせていないため、ここで詳細なお話は出来かねますが、毎年相談内容別に統計を取っております。その様々な分野での相談内容において、本校で特に相談件数が多いのが、学業面と人間関係と記憶しております。

なお、カウンセリング内容については相談室で検討を行っており、情報共有を行い、未然に休学や退学を防ぐ努力をしております。その際、内容により、直接学生を指導している教員とも連携しております。

中島(年)委員：女子学生へのアンケート内容において、教育内容の評価が高いことがありますが、たとえば学業についていけないという学生がいた場合、補習などの対応はされておりますでしょうか。

江崎主事：学業不振の学生への対応ですが、学校としての対応としましては、オフィスアワー導入などにより、学生からの質問に教員が答えやすい体制は整えております。

中島(年)委員：学生が未成年の場合、保護者の方との面談などは行われておりますでしょうか。

江崎主事：担任制度を設けており、担任が対応しております。また、希望者には年2回ほど三者面談する機会を設けております。

平田委員：地域産業や民間企業との連携について、高専として重要視されておりますでしょうか。また、もし何か新たな連携計画等あれば、ご教授いただきたいのですが。

奥山主事：全国高専は5ブロックに分かれており、本校は第5ブロックにあたります。このブロックの中で、様々な地域連携について協議を行っており、その中で外部資金獲得は重要事項と考えております。本校においては、テクノネット久留米との共同研究が数件あり、機械、制御各学科での共同研究がございます。また、テクノネット久留米では地域企業との関係性を作るイベントなどが行われております。さらに、今年度は九州沖縄の地元企業などを交えて高専技術振興会サミットを開催したところでございます。

三川校長：機構本部では研究推進室がございまして、その中で積極的に地域連携を行っております。また、KRA という高専リサーチアドミニストレーターが配置されていまして、高専と企業とのマッチングを行うような仕組みもございます。それと、久留米高専だけではなく、全国高専の教員の様々な得意分野を生かして、多角的な地域連携に対応できるようなネットワーク作りを進めております。

黒木主事：機関別認証評価の様式的に申し上げますと、選択的評価 B の「地域貢献活動等の状況について」においてエビデンスを提示する必要がございますので、その中でしっかりと提示することを考えております。また、改善の体制などについても合わせてご提示予定です。これについては本校 Web ページに掲載予定でございます。

久枝委員長：それでは、まだまだ質疑等あるかとは存じますが、そろそろ委員会としての意見を取りまとめたいため、委員の先生方におかれましては、別室の方に移動をお願いいたします。

講 評

久枝委員長：（講評）

それでは、ご報告をいただいた久留米高専の諸活動につきまして、本委員会を代表いたしまして、若干の意見などを述べさせていただきますと思います。各委員の皆様からのご意見等については多数ございますので、後日提出させていただきます評価結果報告書により、ご確認いただければと思います。



さて、各委員からの主なご意見についてですが、まずは「前年度の指摘事項について」ということですが、非常に真摯にご対応いただき、感服いたしております。その中で、あえて述べさせていただくのですが、女子学生に関してですが、30%という十分な比率については達成されていると感じておりますので、今後は、男子学生への影響を調べる、あるいは、女子学生の増加に伴う女子寮問題があるかと思いますが、自前に対応することが難しければ、地域の受け入れをお願いするなど、地域を生かした対応ができないか、等をご検討いただきたいと思います。

また、グローバル人材育成関係ですが、ご説明では力を入れていらっしゃるということですが、機関別認証評価へのデータを見る限りでは特徴的な取り組みのアピールが見えない、もっとアピールすべきではないか、との意見がございました。

それから「令和2年度に実施する高等専門学校機関別認証評価について」ですが、書類を作成することはもちろん重要ですが、ただ機械的に書類を作るのではなく、認証評価を通じて久留米高専の良いところを積極的にアピールしていただきたいと考えております。例えば、リベラルアーツ特論を必修化する、ですとか、データサイエンスにAIに関する講義を入れるとか、そういう取り組みについては広い視野をもった技術者を育てる面で非常にいい取組なので、そういったところをアピールする。

それから、基準6のところ、久留米高専は入学時に全国2位の偏差値を誇るとのことですが、では、出るとき（卒業・修了時）にはどうなのか。なかなか比較することは難しいとは思いますが、他高専の卒業生との比較などを行っていただくようなことが必要かもしれません。

また、基準3のカウンセリングについてですが、年々の相談件数が増えているということですが、相談件数の増加が必ずしもいいこととは言えませんので、その内容について分析して対応していくことも必要かと感じます。

最後に、地域貢献についてですが、高専にとって地域貢献は重要なミッションであると思われ、積極的にアピールしてほしいと思っています。他方では、科研費も重要事項でありますので、財政的な面も含め、取り組みが科研費の獲得に結び付いたかを検討のうえ、分析していただきたい。

繰り返しになりますが、久留米高専は非常にユニークな取り組みや大学との連携にも取り組んでいらっしゃるの、機関別認証評価においてはそのような点を含めて、積極的にアピールする形でご対応をいただきたいと思います。

閉会挨拶

三川校長：外部評価委員の皆様におかれては、お忙しいところ長時間にわたり、貴重なお時間をいただきまして、感謝の上もないところでございます。本当に有り難うございました。また、委員長をお務めいただいた久枝先生におかれましては、円滑な議事進行と貴重なご意見の取り纏めをしていただき厚く御礼申し上げます。非常に多岐にわたってご指摘とご提言を賜り、とくに、私どもだけでは及びもつかないような観点からのご指摘等を賜り、誠に有り難く存じている次第でございます。

頂戴しましたご指摘等につきましては、できるだけ久留米高専の良い特色をアピールできますように対応したいと考えておりますが、1つ、グローバル人材についてのみ述べさせていただきますと、受け入れの部分については従前からの蓄積がございますが、派遣については昨年度に国際交流推進部会という校長諮問のWGを作り、今年度に提言が行われて、ようやく本校の自主的・主体的な派遣が始まったような状況でございますので、そういった面でアピールがしにくかったものと考えております。今後についてご期待いただければと存じます。

外部評価委員会委員の皆様におかれましては、引き続き、久留米高専の教育・研究・学校運営にご指導とご助言を賜ることをお願いしまして、閉会の挨拶とさせていただきます。本日は年末のお忙しい中、大変有り難うございました。



外部評価の結果

1. 評価点

【報告事項】

- (1) 前年度の指摘事項について
- (2) 令和2年度に実施する高等専門学校機関別認証評価について

| | 報告事項 | 久枝委員長 | 中島(英)委員 | 荒井委員 | 今泉委員 | 坂本委員 | 中島(年)委員 | 富澤委員 | 平田委員 |
|----|------|-------|---------|------|------|------|---------|------|------|
| 評価 | 総合 | 5 | 5 | 4 | 5 | 4 | 5 | 4 | 4 |
| | (1) | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 5 | 4 | 4 |
| | (2) | 4 | 5 | 4 | 5 | 4 | 5 | 4 | 4 |

| 評価点 | 評価基準 |
|-----|-------------------------|
| 5 | 優れている、または、適切である。 |
| 4 | やや優れている、または、ほぼ適切といえる。 |
| 3 | 普通。 |
| 2 | やや劣っている、または、あまり適切といえない。 |
| 1 | 劣っている、または、適切でない。 |

2. 意見・提言

久枝委員長

(1) 前年度の指摘事項---評点5

- ・前年度の指摘事項について細かく対応していることは、高く評価できる。
- ・女子学生の入学が30%に達しており十分であると言える。今後は、女子学生の増加による影響を評価してはどうか。特にポジティブな効果を挙げてほしい。女子学生増加により学生寮の不足が懸案事項となっているが、独自の女子寮ではなく地方公共団体など他の組織と協議して協力を得た方が良い。
- ・グローバル人材育成については久留米高専が力を入れている事項であるが、もっと特徴的な取り組みをアピールした方が良い。
- ・研究推進に関しては、科研費の獲得増加が懸案事項であり、いくつかの対策を講じている説明があったが、実施した対策の効果を検証した方が良い。

(2) 令和2年度に実施する高専機関別認証評価について---評点4

- ・種々の評価を実施せざるを得ないことはわかるが、事務的に対応するのではなく、真に教育研究に生かすつもりで対応しないと、その努力が生かせないと思う。その点では、久留米高専の強みを強調するような記載を期待したい。
- ・基準5の教育方法に関しては、リベラルアーツ特論を4年生の必修にし、数理・DS・AIの講義を入れるなど、学生にとって広い視野を持てるような科目が今年度から導入されている。非常に良いので、今後に期待したい。
- ・基準6の学生受入については、全国の高専で2位の高い偏差値の学生が入学している。これは素晴らしいが、この学生が卒業時にどのように成長したかを他の高専と比較出来ると良い。
- ・基準3の学生支援について、カウンセリングの相談件数が著しく伸びているが、その理由を分析し、取り組みをアピールした方が良い。工学を学ぶ学生は真面目な学生が多いが、メンタルには必ずしも強くない。退学や自殺などの重大な方向に行かぬような対策が重要である。
- ・選択的評価事項で地域貢献を選んでいる。高専のミッションとして地域貢献は最も重要な事項の1つと思われる。観点の中に項目としては記載されていないが、地元への人材供給や共同研究、インターシップは重要と考える。その点で久留米高専が優れているなら、特記事項に記載してアピールした方が良い。

中島(英)委員

- (1) 非常にきちんと計画が実行されていると判断いたします。
- (2) 教員の確保もしっかり行われている。
- (3) 学生募集もきちんと行われている。

荒井委員

外部評価委員の永田見生久留米大学長の代理として、令和12月13日午前11時より午後4時まで、施設見学、自己点検報告と質疑応答に参加しました。工業制作の現場から実習を通じて工学を学修できるよう配慮されており、教育スタッフに自校出身者がいて後輩の学生を指導教育のよき伝統が継承されていることに好感しました。卒業者の半数が産業界に就職する一方、半数が大学に進学しているということからも教育実績を挙げていると評価されます。教育面での新たな試みとして、リベラルアーツ特論・全学科横断科目・技術者素養科目の導入は、狭い領域にとらわれない創造性を高めるもの

として期待いたします。

自己点検の手法では、高専として戦略的に重視する方針を中長期的に見定めたくて年次計画を作成・実施するという姿が見えるようにしていくとよいのではないかと思います。教育面では「可視化」が求められる時代となっているので進路面以外の工夫も必要になってくるでしょう。学生支援面では女子寮が課題とされているようですが、予算面の制約もあるので外部資源の活用を模索するのも一法かと思います。

全国の高専の中でも独自の特色を打ち出すようにして今後もいっそう発展されるよう祈念いたします。

今泉委員

(1) 前年度指摘事項：女子学生比率向上については、真摯に取り組まれ30%台の比率であり、十分成果を上げておられる。グローバル人材育成教育プログラムについては、短期の滞在型が多く、長期の留学例が少ないように見受けられます。

(2) 認証評価について：AI時代に求められる人材育成プログラムが他の高専に先駆けて内閣府のHP上に掲載されたことは本学の先進性を示す上で評価します。御校入学時の学生の偏差値は順位2位で極めて高いことが分かりました。入学時の期待と卒業時の満足度との対比を理解するうえで、卒業時の学生の満足度の比較示標があれば有用ではないでしょうか。

坂本委員

今回の外評価委員会に議題は令和2年度実施の高等専門学校機関別認証評価に向けた回答の説明となっている関係上、やや当たり障りのない無内容となり、やむを得ないことではあるが、学校の独自の取り組みや将来展望に関するアピールが弱いように感じました。

最近の工学離れの風潮から高専生は企業において再認識されており、特に製造現場で評価が高いように思います。貴校は国内でもトップクラスのレベルを誇っていることから優れた教育を実施していることがわかります。ただ、高専機構内部だけではなく、より広く特徴や実績をアピールして行くことが重要だと思います。すでに始まっていると思いますが、今後の高専の差別化に対して、まずは実績のアピール活動に力を入れることが必用だと感じました。

これまでの取り組みのなかで、国際交流の大切さが意識されていることは素晴らしいと感じました。予算や資金的な問題で思うように進まないとは思いますが、既に企業から高い評価を受けている基礎教育に加えて、国際交流の経験機会を出来るだけ増やすことは有用だと思います。民間資金活用の方策を検討することもあるのではないのでしょうか。

これからも地域から期待される優れた人材育成機関として、ますますの発展をお祈り致します。

中島(年)委員

- ・外部評価の指摘・意見に対して適切に対応され、運営内容の向上が図られている。
- ・学校長をはじめ、各部門リーダー、スタッフまで運営方針、改善ロードマップ等が共有化され、各取り組みに成果が見られる。
- ・総合的に優れた運営がなされている。

富澤委員

- ① 女子学生入学者が今年度30%というのは十分なレベルと思う。これまでのPR活動の成果だと考える。このレベルは維持しつつ、今後は女子学生が増えたことによる好影響(授業や諸活動の活性化、ダイバーシティの浸透、施設のリニューアル等)をアピールする段階と考える。

- ② 教職員配置で女性の数が少ないのはそもそもの絶対数の不足に原因があると思うが、少しずつ増やす努力を継続して欲しい。増えれば今後の女子学生確保にもプラスに働くと考える。
- ③ カウンセリング体制はきちんととられており、内容の分析もされているようだが、どのような点で成果があったか、今後どう生かしていくのかまで踏み込んだ説明があるとよい。
- ④ グローバル人材育成教育では、海外学生人材との交流機会を設ける等、工夫されているが、実践的な英語力は必須と考えるので、学習機会が特定の学生に偏らないようにすべき。

平田委員

- (1) 前年度の指摘事項については、よく改善されていると考えるが、教育の高度化、研究推進については継続的な改善取組みにより久留米高専をより高度化することを望む。
- (2) 機関別認証評価については、概ね対応準備ができていると思います。高専の使命の一つに地域貢献がありますが、今後も、色々な機関との連携を強化し地域の発展に寄与すること期待します。

宝満川

外部評価委員会

久留米工業高等専門学校

筑後川

令和元年12月13日 大会議室

令和元年12月13日（金）

令和元年度 外部評価委員会
黒木企画主事



独立行政法人国立高等専門学校機構
久留米工業高等専門学校

昨年度 指摘事項

| 分類 | 内容概略 |
|----|---------------------|
| A | 自己点検評価の重点化や教員負担軽減 |
| B | 地元の行事日程を考慮した説明会等の企画 |
| C | 志願倍率向上のための活動検討 |
| D | 地元企業への就職者を増やす方策の検討 |
| E | キャリア支援取組方法の改善 |
| F | 外国人の日本国内就職支援方策検討 |
| G | 女子学生比率向上対策の検討 |
| H | 近隣大学・大学院と連携した共同研究推進 |
| I | 学科改組の検討 |
| J | グローバル人材育成教育プログラム検討 |
| K | 大学進学者へのサポート体制検討 |

令和元年12月13日（金）

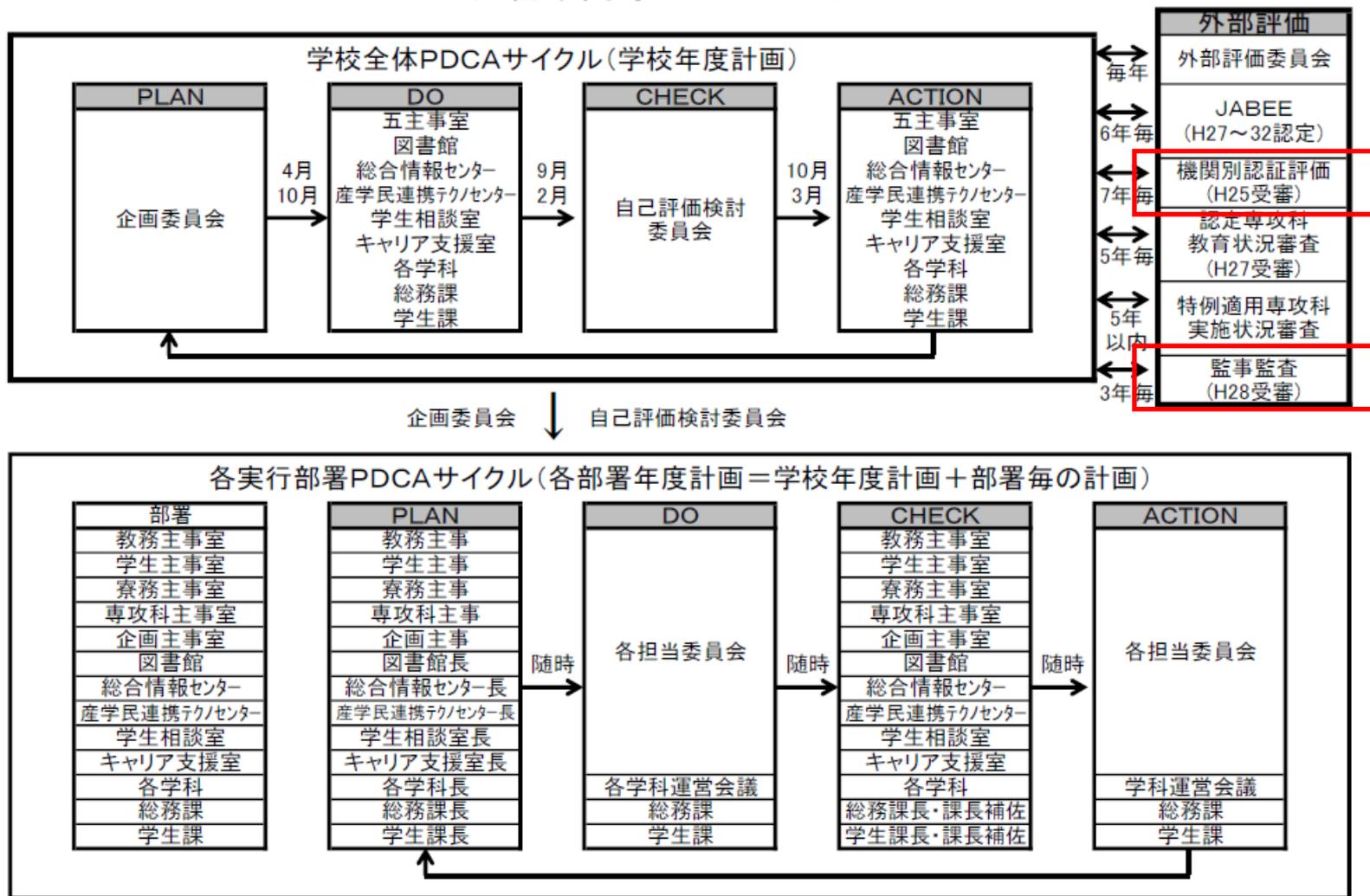
令和元年度 外部評価委員会
黒木企画主事



独立行政法人国立高等専門学校機構
久留米工業高等専門学校

本校PDCAサイクル

久留米高専PDCAシステム



令和元年12月13日 (金)

令和元年度 外部評価委員会
黒木企画主事



独立行政法人国立高等専門学校機構
久留米工業高等専門学校

自己点検評価表

独立行政法人国立高等専門学校機構

久留米工業高等専門学校
 National Institute of Technology, Kurume College

〒830-8555
 福岡県久留米市小森野1-1-1
 ☎ Q info@ON.kurume-nct.ac.jp
 Tel: 0942-35-9300 (代表)
 Fax: 0942-35-9307

◀ ホーム ▶ お問い合わせ ▶ アクセス English

Google カスタム検索

● 学校案内 ● 入学案内 ● 学科・専攻科案内 ● 学生活動 ● **情報公開** ● 研究・産学民連携 ● 教員公募

受験生の皆さんへ 在校生・保護者の方へ 企業の方へ **卒業生の方へ**

機関別認証評価
 JABEE
 中期/年度計画・自己点検評価等
 大学等における修学の支援に関する法律第7条第1項の確認に係る申請書



中期目標/中期計画/年度計画・自己点検評価・外部評価

久留米高専では、独立行政法人国立高等専門学校機構の中期計画・中期目標に基づき、平成21年度より年度計画を策定し、継続的な教育・研究の改善を進めております。また、久留米高専では平成18年度に法律に基づいた機関別認証評価の審査を受審し、国の定める基準を満たしていると認定されました。これとは別に各専門学科においてもJABEE(日本技術者教育認定機構)から、JABEEが定める一定の基準を満足していることが認定されています。更に、これら外部評価とは別に、本校独自に自己評価点検を実施し、自己点検・評価報告書を元に、学外の有識者による外部評価も実施しております。

このページでは、本校の中期目標/中期計画/年度計画、外部評価の基となる自己点検・評価報告書、及び外部評価委員会の報告書を公開しています。ファイル情報の「ダウンロード」ボタンをクリックすると、新しいウィンドウにファイルが表示されます。

一部ブラウザではファイルが文字化けすることがあります。その場合はファイルをダウンロードいただき、Adobe Readerなどをご使用の上ご覧下さい。

| 書類名 | 概要 | ファイル情報 |
|-------------------|---|---|
| 令和元年度 年度計画 | 久留米工業高等専門学校の令和元年度計画です。 | 計画書全体 (PDFファイル 343KB) ダウンロード |
| 平成30年度 外部評価委員会報告書 | 平成30年度に開催された久留米工業高等専門学校外部評価委員会の説明資料、質疑応答、評価結果等をまとめた報告書です。 | 報告書全体 (PDFファイル 5.1MB) ダウンロード |
| 平成30年度 自己点検評価書 | 久留米工業高等専門学校の平成30年度自己点検評価書です。 | 評価書全体 (PDFファイル 1.3MB) ダウンロード |

令和元年12月13日 (金)

令和元年度 外部評価委員会
黒木企画主事



独立行政法人国立高等専門学校機構
久留米工業高等専門学校

自己評価書の構成

平成31年3月19日

アンダーライン：第1回運営委員会以降の追加・変更点
 グレー：新規追加項目 第四期中期計画追加事項 ×：昨年度で終了する項目

平成31年度 自己点検評価書(案)

※記載担当
 【○】主担当
 【△】副担当

※評価基準
 A：達成
 B：ほぼ達成
 C：取り組みがやや不十分
 D：取り組みが不十分

| [最左欄] ローマ数字 記・機別別認証評価で指摘された事項(○)・書面指摘・△:訪問調査時指摘 外:外部評価委員会で指摘された事項 JB:JABEEで指摘された事項 | 記入担当者報告用データ | | | | | | | | | | | 項目別評価 | 事項別評価 | 次年度へ向けての対応(担当者データ) | | | | | | | | | |
|--|-------------|------|------|-------|------|------|--------|--------|--------|----------|----|-------|-------|--------------------|----|----|----|----|----|------|------|---------------------------------|--------------------|
| | 教務主事 | 学生主事 | 業務主事 | 専攻科主事 | 企画主事 | 図書館長 | 総合情報C長 | 産学連携C長 | 学生相談室長 | キャリア支援室長 | 機械 | | | | 電気 | 制御 | 生化 | 材料 | 文科 | 理科 | 総務課 | 学生課 | |
| 1 国民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上...取るべき措置 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1.1 教育に関する事項 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (1) 入学者の確保 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1.1 (1) ① 教員による中学校訪問 | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | A(教) | A | 次年度も同様に実施する(教務主事)。 |
| 1.1 (1) ① 入試予備問題のマークシート化対応 | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | × | A(教) | A | 対応済み(教務主事)。 継続(文) | |
| 1.1 (1) ① 学科別パンフレットの作成検討 | ○ | | | | | | | | | △ | △ | △ | △ | △ | | | | | | A(教) | A | 次年度も同様に実施する(教務主事)。 決定なし。(機械) | |
| 1.1 (1) ① 中学校への本校紹介情報充実 | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | A(教) | A | 次年度も同様に実施する(教務主事)。 | |
| 外 1.1 (1) ① 中学校教員への本校紹介方法検討(H29外部評価委員会) | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | A(教) | A | 次年度も同様に実施する(教務主事)。 | |
| 6 1.1 (1) ① 機構の広報活動調査とそれらの活用 | ○ | | | | | | | | | | | | | | | | | | ○ | A(教) | A | 次年度も同様に実施する(教務主事)。 | |

行

評価

委員会評価

担当部署自己評価

担当部署

次年度
対応内容

令和元年12月13日 (金)

令和元年度 外部評価委員会
 黒木企画主事



独立行政法人国立高等専門学校機構
 久留米工業高等専門学校

外部評価委員会指摘項目 (1/2)

中学校教員への本校紹介方法検討 (H29外部評価委員会)

中学校等の行事日程を考慮した説明会等の企画 (H30外部評価委員会)

志願倍率向上策の検討・実施 (H30外部評価委員会)

Web上へのタイムリーな入試案内や高専紹介情報公開 (H29外部評価委員会)

学科改組の検討 (H30外部評価委員会)

学生の授業評価アンケート項目の見直し検討 (H25外部評価委員会)

情報セキュリティ科目の全学科導入(H28外部評価委員会)

グローバル人材育成教育プログラム検討 (H30外部評価委員会)

英語力の達成目標の導入検討

大学とのクロスアポイントメント制度導入検討(H28外部評価委員会)

教職員のワーク・ライフバランスの点検及び適正化(H28外部評価委員会)

大学、大学院との連携強化の方策検討 (H30外部評価委員会)

学科横断科目の導入検討 (H28外部評価委員会)

留年・休学・退学者の減少対策検討 (H28外部評価委員会)

カウンセリングの実施状況の把握および分析

人権意識の確立やDV防止教育の実施

1: 昨年度の指摘事項について

令和元年12月13日 (金)

令和元年度 外部評価委員会
黒木企画主事



独立行政法人国立高等専門学校機構
久留米工業高等専門学校

外部評価委員会指摘項目 (2/2)

| |
|--|
| 業種別および地域別就職先の調査・分析 (H29外部評価委員会) |
| 地元企業への就職者を増やす方策の検討 (H30外部評価委員会) |
| 外国人留学生の日本国内就職支援方策検討 (H30外部評価委員会) |
| 大学進学者へのサポート体制検討 (H30外部評価委員会) |
| 地域の産業界に対するニーズ調査方法検討 |
| 「テクノネット久留米」(技術振興会)のアウトプットのあり方の検討 (H29外部評価委員会) |
| 科研費申請数向上対策実施(H29外部評価委員会) |
| 共同研究・受託研究の公開 (H29外部評価委員会) |
| 女子学生数の増加対策検討 |
| 本科・専攻科進路の県内・県外割合把握、公開 (H25外部評価委員会) |
| 機構本部作成コンプライアンス・マニュアル等を活用した教職員コンプライアンス向上 (H29外部評価委員会) |
| 自己点検書の重点化方法検討 (平成30年度外部評価委員会) |
| 認証評価に対応した外部評価委員会の開催および審議内容の検討 |
| 責任と業務量に相当する教員の処遇方法検討 (H29外部評価委員会) |

1: 昨年度の指摘事項について

2: 令和2年度に実施する高等専門学校機関別認証評価について

令和元年12月13日 (金)

令和元年度 外部評価委員会

黒木企画主事



独立行政法人国立高等専門学校機構
久留米工業高等専門学校

本日の議題

- 議題1: 昨年度の指摘事項について
 - 女子学生比率向上（志願倍率向上も含む）の対策
 - ✓ 女子入学生の年度遷移とその分析
 - ✓ 男女共同参画推進委員会の活動
 - グローバル人材育成教育プログラム検討
 - ✓ 平成30年度 国際交流推進作業部会 ⇒ 国際交流委員会の活動
 - 教育の高度化
 - 研究推進
 - ✓ 平成30年度 研究推進作業部会 ⇒ 研究推進委員会の活動
 - 自己点検書の重点化方法検討
- 議題2: 令和2年度に実施する高等専門学校機関別認証評価について

議題1: 昨年度の指摘事項について

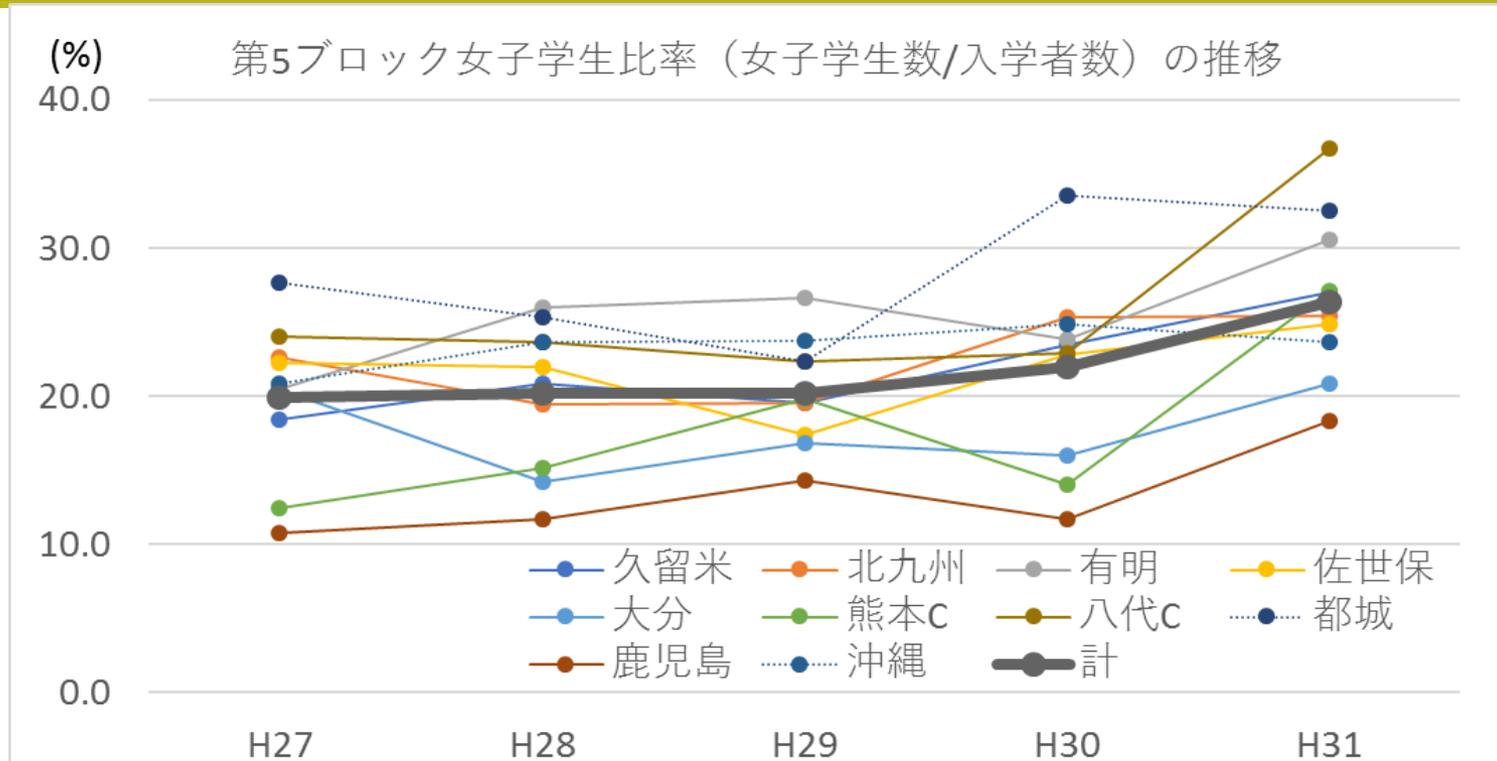
令和元年12月13日（金）

令和元年度 外部評価委員会
黒木企画主事



独立行政法人国立高等専門学校機構
久留米工業高等専門学校

女子学生比率向上（志願倍率向上も含む）の対策

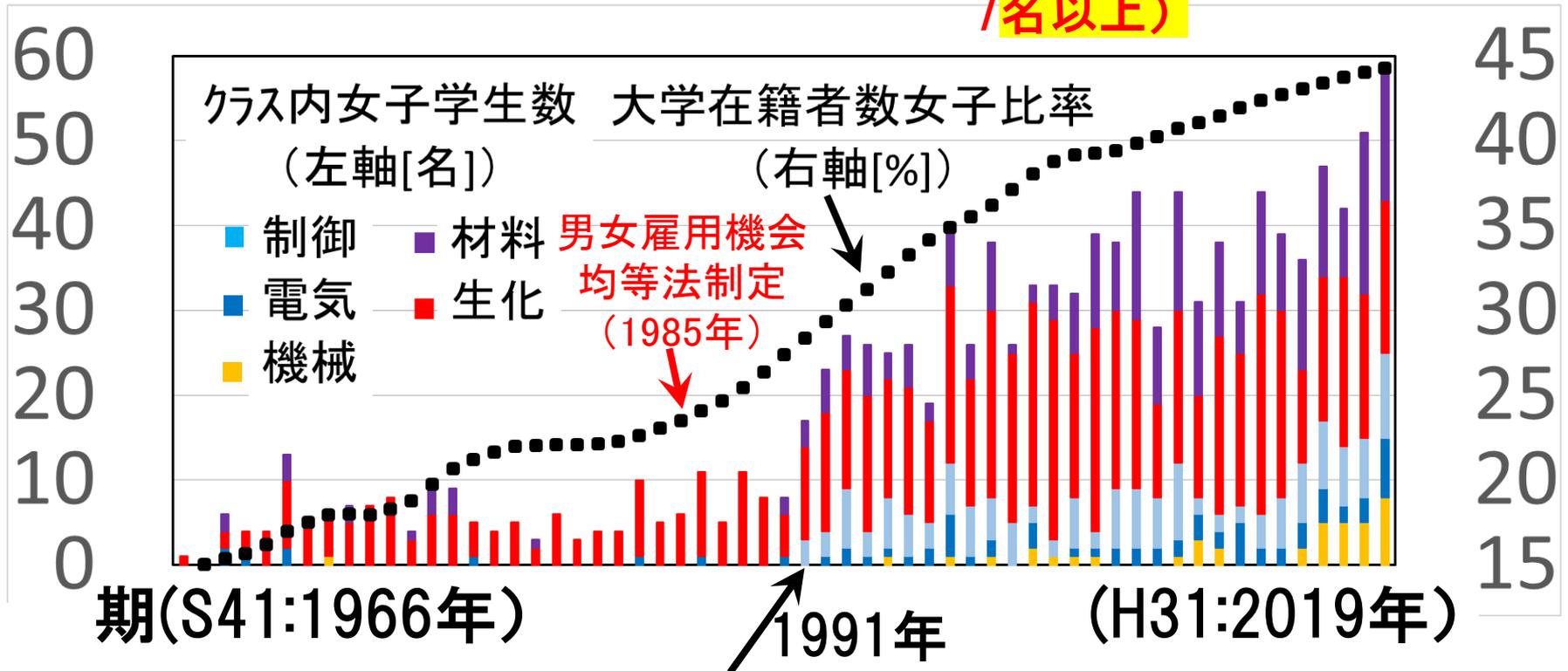


- 第5ブロック（九州・沖縄）の傾向
 - 平成30年度から増加傾向
 - 久留米高専はほぼ中位

女子入学生の年度遷移とその分析

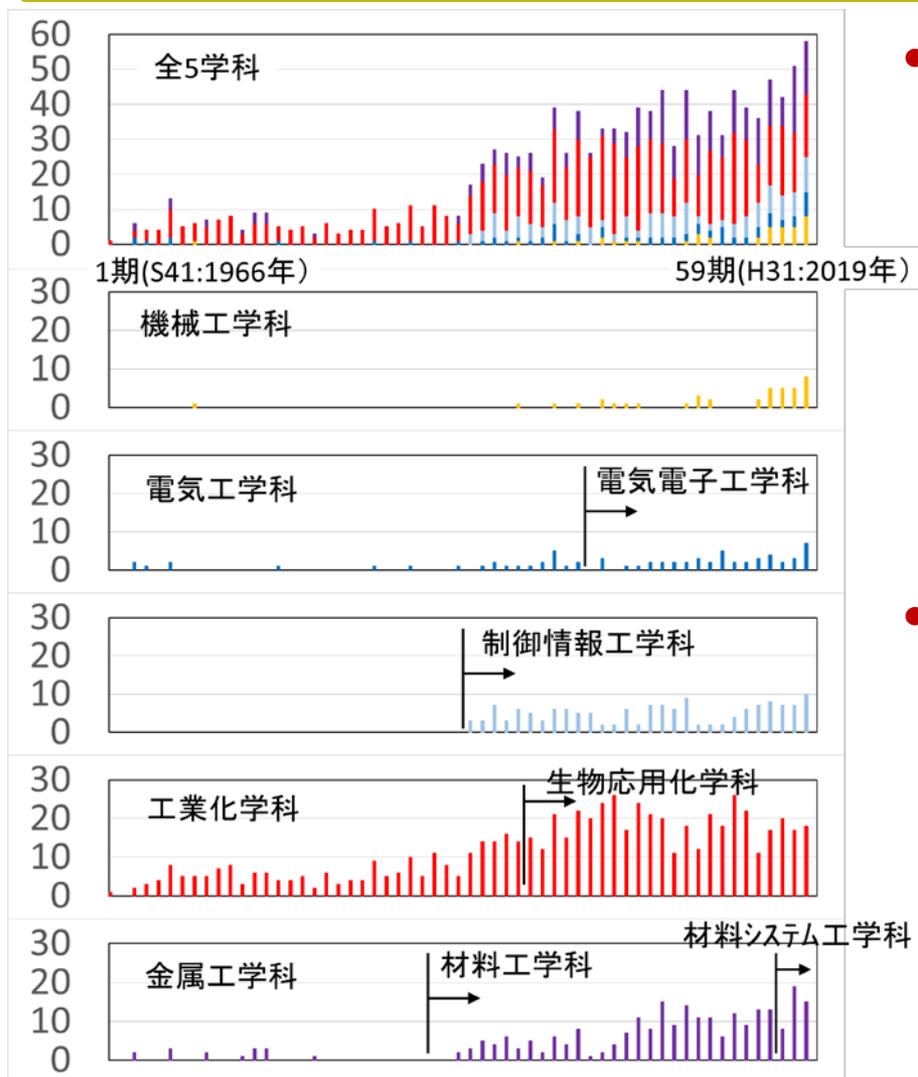
女子学生数の推移

新高専1期～53期:卒業生(同窓会名簿より)、54期～59期:在学生
7名以上)



2クラス⇒機械工学科+制御情報工学科

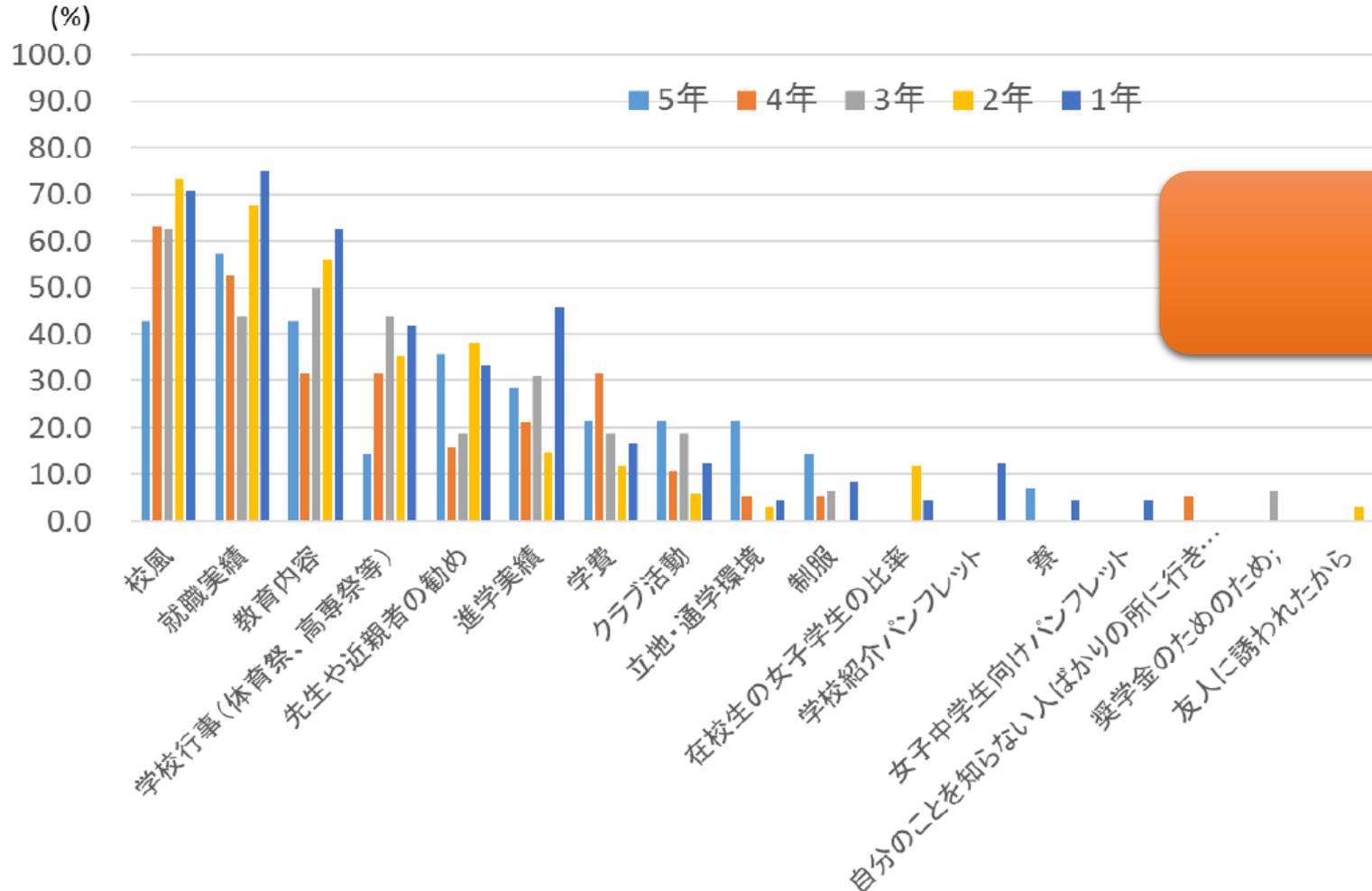
女子学生比率向上（志願倍率向上も含む）の対策



- 平成3年度の制御情報工学科設置時の増加
 - 機械工学科2クラスを改組
 - ✓ 機械工学科1クラス
 - ✓ 制御情報工学科1クラス
 - 工業化学科が10名(25%)を超えて徐々に増加(50%)
 - ✓ 生物応用化学科への改組ではなく，アンケートの結果から7～10名を超えたことが要因
- 直近5年の増加
 - 機械工学科の増加
 - ✓ 電気電子工学科も増加
 - アンケートによる志望動機に変化はない
 - 「キラキラ高専ガールになろう！」などの広報の効果か？

女子学生比率向上（志願倍率向上も含む）の対策 本校女子学生のアンケート結果（115回答/215名）

受験先として久留米高専を選んだ理由



令和元年12月13日（金）

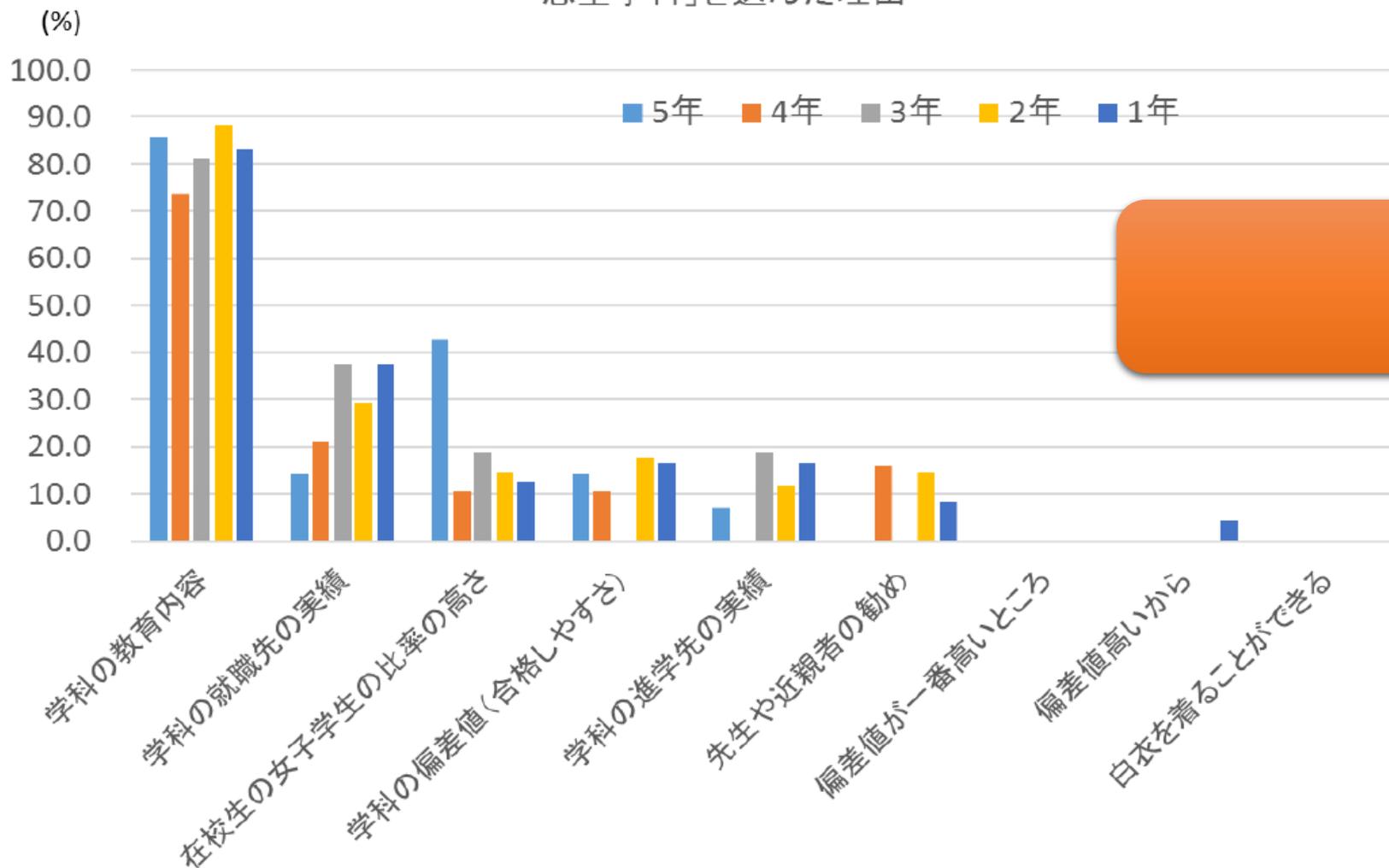
令和元年度 外部評価委員会
黒木企画主事



独立行政法人国立高等専門学校機構
久留米工業高等専門学校

女子学生比率向上（志願倍率向上も含む）の対策 本校女子学生のアンケート結果（115回答/215名）

「志望学科」を選んだ理由



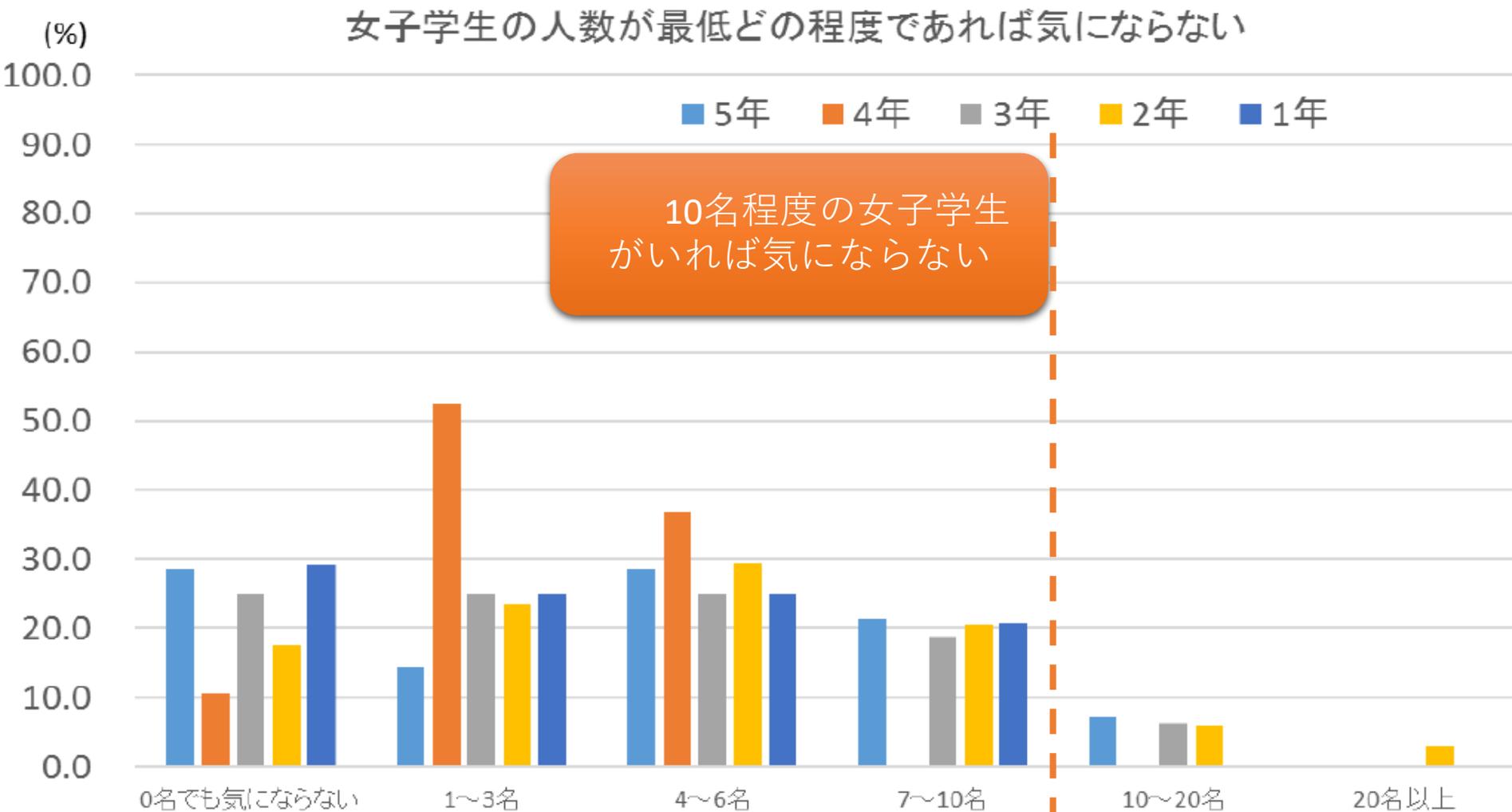
令和元年12月13日（金）

令和元年度 外部評価委員会
黒木企画主事



独立行政法人国立高等専門学校機構
久留米工業高等専門学校

女子学生比率向上（志願倍率向上も含む）の対策 本校女子学生のアンケート結果（115回答/215名）



令和元年12月13日（金）

令和元年度 外部評価委員会
黒木企画主事



独立行政法人国立高等専門学校機構
久留米工業高等専門学校

女子学生比率向上（志願倍率向上も含む）の対策 本校女子学生のアンケート結果（115回答/215名）

- 「女子中学生が本校を受験したいと思うようにするために改善すべき事項」（自由記述）
- 主な意見は下記3点である。
 - 女子寮の収容定員増
 - ✓ ここ数年、入寮希望者が定員を超えており、今年度は入寮希望者の内8名が入寮できなかったことが要因か
 - トイレの環境改善
 - ✓ トイレのない階があることや老朽化したトイレがあることが要因か
 - 女子更衣室の環境改善
 - ✓ エアコンがなく、部屋自体も女子学生数の増加に伴い狭隘化していることが要因か

男女共同参画推進委員会の活動

- 女子学生のヒアリング
 - 日時：令和元年7月24日（水）15時40分～16時30分
 - 出席：女子学生16名（ヒアリング対象者）
 - 実施者：男女共同参画推進委員会委員（5名）
- 教職員のヒアリング
 - 日時：令和元年8月8日（木）15時30分～16時50分
 - 出席：11名（男性：4名 女性：7名）
 - 実施者：男女共同参加推進委員会委員（5名）※ヒアリング対象者との兼任（1名）含む
- 第3回 男女共同推進委員会（10月2日）で報告
- 第6回 運営委員会（10月16日）で報告

第6回 運営委員会報告内容（抜粋）

- 女性教職員及び女子学生の就業・就学環境の改善
 - 独立行政法人国立高等専門学校機構男女共同参画行動計画の重点項目及び行動計画に挙げられる「女子学生の在籍比率の向上、教員採用に占める女性比率の向上」を達成するためには、女性教職員及び女子学生が“安全・安心”して就業・就学に臨める施設環境の整備が必須である。このため、ヒアリングで表明された改善要望の中から特に女性教職員・女子学生から改善要望が多かった、次の3項目を具体的な施設環境整備事項として提案する。
 1. 一般教室棟女子便所の洋式化
 2. 校内外灯の充実（特に校内西側体育施設周辺から正門までの帰宅経路）
 3. 女子更衣室への防犯ブザーの設置
- その他
 - 一般家庭の洋式トイレ保有率を鑑みると、男女の区別なく便器様式別比率（和式・洋式の構成比率）は、施設環境改善の観点から検討が必要であることを補足する。

グローバル人材育成教育プログラム検討

- 9高専連携事業（H24～H28）を嚆矢に受入を開始
 - タイ，シンガポールから毎年20名程度
 - 研究室に配属し，卒研究生，専攻科生と共同研究
 - ✓ 共同研究へと発展（国際会議共著4件）
 - ✓ KMITLと修士/学士並行プログラムの締結
 - タイからの受入はJASSO協定受入が平成27年度より採択
 - さくらサイエンスプランは平成26年度から28年度を除いて毎年採択
 - 英語などの授業への参加
 - ツールーズIUTと覚書を締結予定



令和元年12月13日（金）

令和元年度 外部評価委員会
黒木企画主事



独立行政法人国立高等専門学校機構
久留米工業高等専門学校

グローバル人材育成教育プログラム検討

- 国際交流推進部会の設置（H30年度）
 - 校長の諮問機関 → H31年4月8日答申
 - 令和元年度より本校の主体的な派遣を開始
- KMITLに本科生8名を派遣
 - 柿原科学技術研究財団より3万円/人の補助
 - トビタテ！留学Japan採択学生と共に全校集会でプレゼンを行い、学生を啓発
- ホーチミン市工科大学（1月）マレーシア工科大学（3月），派遣予定
- 本校主催の派遣事業，トビタテ！留学Japan等の募集はOffice365を用いて全学生に案内
- 海外渡航経験学生の組織化を学生会と検討中



令和元年12月13日（金）

令和元年度 外部評価委員会
黒木企画主事



独立行政法人国立高等専門学校機構
久留米工業高等専門学校

教育の高度化

| 締結先 | 内容 | 締結年月日 | 修了年月日 |
|--|-----------------------|-------------|------------|
| 久留米大学、久留米工業大学、 久留米信愛女学院短期大学、聖マリア学院大学 | 単位互換 | 平成16年6月28日 | 平成32年3月31日 |
| 久留米工業大学、久留米大学、 聖マリア学院大学、久留米信愛女学院短期大学 | 高等教育コンソーシアム久留米の設置 | 平成21年12月17日 | 無期限 |
| 早稲田大学大学院情報生産システム研究科 | 推薦入学 | 平成23年4月1日 | 平成33年3月31日 |
| 北陸先端科学技術大学院大学 | 推薦入学 | 平成23年3月27日 | 平成32年3月26日 |
| 有明工業高等専門学校、北九州工業高等専門学校、 佐世保工業高等専門学校、熊本高等専門学校、 大分工業高等専門学校、都城工業高等専門学校、 鹿児島工業高等専門学校、沖縄工業高等専門学校 | 単位互換 | 平成21年10月1日 | 平成32年10月1日 |
| 久留米工業大学 | 共通教材開発、編入学、共同研究 | 平成29年6月1日 | 平成32年5月31日 |
| 九州大学大学院総合理工学府、大学院総合理工学研究院、 応用力学研究所、先導物質化学研究所 | インターンシップ・共同研究 | 平成30年1月11日 | 平成35年1月11日 |
| 九州大学工学系部局 | インターンシップ・共同研究・連携教育の推進 | 平成30年12月1日 | 平成35年12月1日 |

令和元年12月13日（金）

令和元年度 外部評価委員会
黒木企画主事



独立行政法人国立高等専門学校機構
久留米工業高等専門学校

研究推進

- 研究推進作業部会の設置（H30年度）
 - 校長の諮問機関 → H31年4月15日答申
- 研究推進委員会の活動：本年度は以下を実施
 - 科研費申請率の向上
 - ✓ 不申請理由書の提出（継続）
 - ✓ 申請に対する予算的補助インセンティブ（継続）
 - ✓ 大型種目（500万円以上）へのグループ申請インセンティブ（次年度予定）
 - 採択率向上
 - ✓ 学内相互査読，査読チェックシート（継続）
 - ✓ 採択（他の外部予算含む）の予算的補助インセンティブ（継続）
 - ✓ 採択経験者による学内査読（新規，査読者へのインセンティブ）
 - ✓ 高専機構採択事例数の作成と供覧，本校採択事例集の供覧（新規）
 - ✓ 学内科研費講習会の実施（新規）
 - ✓ 高専機構科研費研修会への派遣（新規）
 - ✓ 不採択A判定，B判定への予算的補助インセンティブ（新規に拡充）

議題2

令和2年度に実施する高等専門学校機関別認証評価について

令和元年12月13日（金）

令和元年度 外部評価委員会
黒木企画主事



独立行政法人国立高等専門学校機構
久留米工業高等専門学校

機関別認証評価とは

より抜粋

- 高等専門学校は、その教育研究水準の向上に資するため、教育研究、組織運営及び施設設備の総合的な状況に関し、7年以内ごとに、文部科学大臣が認証する評価機関（認証評価機関）の実施する評価を受けることが義務付けられています。（学校教育法第109条第2項、第123条及び学校教育法施行令第40条）
- 前回：平成25年に実施

評価のスケジュール

- 評価実施の前年度（令和元年）
 - 8月：説明会，自己評価担当者に対する研修会
 - 9月末：評価の申請及び受付
- 評価実施年度（令和2年度）
 - 6月：評価担当者に対する研修の実施
 - 6月末：自己評価書の提出
 - 7月～1月：機構における評価の実施
 - 1月末：評価結果（案）の通知
 - 2月：意見の申立ての手続
 - 3月：評価結果の確定及び講評
- 評価実施年度の翌年度以降
 - 6月末：改善状況の上告

評価基準

- 1 教育の内部質保証システム
- 2 教育組織及び教員・教育支援者等
- 3 学習環境及び学生支援等
- 4 財務基盤及び管理運営
- 5 準学士課程の教育課程・教育方法
- 6 準学士課程の学生の受入れ
- 7 準学士課程の学習・教育の成果
- 8 専攻科課程の教育活動の状況
 - ~~A~~ ~~研究活動の状況~~
 - B 地域貢献活動等の状況

基準1：教育の内部質保証システム

- 観点1-1-① 教育活動を中心とした学校の活動の総合的な状況について、学校として定期的に自己点検・評価を実施するための方針、体制等が整備され、点検・評価の基準・項目等が設定されているか
 - **満たしていると判断**
 - 方針を定めているか：**定めている**
 - ✓ 規程等：**資料1-1-1-(1)-01_自己点検評価書作成要項**
 - 実施体制を整備しているか：**整備している**
 - ✓ 規定等：**1-1-1-(2)-01_久留米工業高等専門学校自己評価検討委員会規則**
 - 上記方針に基づいて自己点検・評価の基準・項目等を設置しているか：**設定している**
 - ✓ 規定等：**1-1-1-(1)-01_自己点検評価書作成要項（再掲）**，**1-1-1-(3)-01_令和元年度自己点検評価書**

基準1：教育の内部質保証システム

- 観点1-1-② 内部質保証システムに基づき、根拠となるデータや資料に基づいて自己点検・評価が定期的に行われ、その結果が公表されているか。
 - **満たしていると判断**
 - 根拠資料の収集・蓄積：**収集・蓄積している**
 - ✓ 収集・蓄積の資料：1-1-2-(1)-01_サイボウズ画面
 - ✓ 担当組織、責任体制がわかる資料：1-1-2-(1)-01_サイボウズ画面
 - 自己点検・評価の定期的実施：**実施している**
 - ✓ 実施状況がわかる資料：1-1-1-(1)-01_自己点検評価書作成要項（再掲）
 - ✓ 実施状況の適切性：上記自己点検書作成要項に則り、毎年行っている。要項の第2条にある通り、本校の業務を継続的に改善するためのPDCAサイクルを推進するためには毎年の点検が必要であるため、適切な頻度と判断する。
 - 自己点検・評価の公表：**公表している**
 - ✓ 資料：<http://www.kurume-nct.ac.jp/kikaku/SelfInspection.html>

基準1：教育の内部質保証システム

- 観点1-1-③ 学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており、それらの結果が自己点検・評価に反映されているか。
 - 満たしている
 - 反映の対象：○教員，○職員，○在学生，○卒業（修了）時の学生，○卒業（修了）から一定年数後の卒業（修了）生，×保護者，×就職・進学先関係者
 - 資料：
 - ✓ 1-1-3-(1)-01_31.1.16自己評価アンケート（機械・教育）
 - ✓ 1-1-3-(1)-02_31.1.16自己評価アンケート（機械・支援）
 - ✓ 1-1-3-(1)-03_31.1.16自己評価アンケート（専攻科・教育）
 - ✓ 1-1-3-(1)-04_31.1.16自己評価アンケート（専攻科・支援）
 - 自己点検・評価結果報告書等の該当箇所：1-1-3-(1)-01_自己点検・評価報告書等の該当箇所

観点1-1-③の続き：意見聴取の内容

- 在校生：
 - ○学習環境，○授業評価，○教育・学習の達成度
 - ○学満足度評価
- 卒業（修了）時
 - ○教育・学習の達成度，○満足度
- 卒業（修了）後
 - ○教育・学習の達成度，○満足度
- 外部評価
 - ○外部有識者の検証，○教育活動に関する第三者評価（機関別認証評価、JABEE等），○設置計画履行状況調査
 - 該当資料：1-1-3-(2)-01_平成30年度第5回自己評価検討委員会議事要旨(抜粋)

基準1：教育の内部質保証システム

- 観点1-1-④ 自己点検・評価や第三者評価等の結果を教育の質の改善・向上に結び付けるような組織としての体制が整備され、機能しているか。
 - **満たしている**
 - 結果を教育の質の改善・向上に結び付ける体制：**整備されている**
 - ✓ 資料：1-1-4-(1)-01_PDCAシステム図
 - 前回の機関別認証評価において「改善を要する点」として指摘された事項への対応：**対応している**
 - ✓ 資料：1-1-1-(2)-01_対応状況説明資料
 - 上記以外の改善の取組：**行っている**
 - ✓ 資料：資料1-1-1-(3)-01_令和元年度自己点検評価書

基準1-2 準学士課程 3ポリシーと学校の目的

| 項目 | 学校 | 本科 | | 専攻科 | | |
|------------|----|----|-----|-----|-----|------|
| | | 全体 | 各学科 | 全体 | 各専攻 | 各コース |
| 教育理念 | ○ | | | | | |
| 教育目的 | | ○ | ○ | ○ | | |
| 教育目標 | | ○ | | | | ○ |
| アドミッションプリシ | | ○ | ○ | ○ | ○ | |
| ディプロマポリシ | | | ○ | | ○ | |
| カリキュラムポリシ | | | ○ | | ○ | |

【技術者の木】

創造性
Creativity

広い視野
Broad Vision

豊かな心
Humanity

自立の精神
Spirit of Independence



自立の精神と創造性に富み、
広い視野と豊かな心を兼ね備えた、
社会に貢献できる技術者の育成

教育目的・目標（本科）

1 教育目的

次のような実践的、創造的技術者を育成する。
ア 自立の精神と創造性に富んだ技術者
イ 広い視野と豊かな心を兼ね備えた技術者
ウ 社会に貢献できる技術者

2 教育目標

ア 広い視野と豊かな心の涵養
イ 数学、自然科学、情報処理に関する基礎能力の育成
ウ 専門に関する基礎知識と技術の修得
エ 問題を分析し、解決する能力の育成
オ 自ら学び、工夫する能力の育成
カ コミュニケーション能力の育成

アドミッションポリシー

1 本科

1. 技術者になる意欲を持っている人
2. 理数系の基礎学力が身に付いている人
3. 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
4. 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人

2 専攻科

1. 科学技術に対する強い探究心をもち、積極的に取り組む人
2. 専門分野の基礎を修得している人
3. 社会性と倫理観を身につけている人
4. 基礎的なコミュニケーション能力を身につけている人

機械工学科

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）

機械工学科は、ものづくりの精神を基本とし、機械技術者としての基礎能力や専門技術を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的機械技術者を育成することを目指しています。そのため以下のような能力を身につけ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

1. 機械工業に必要な、材料強度、機械力学、設計製図、生産加工、制御情報、熱、流体および機械工学に関連した周辺技術に関する基礎的な知識と技術を修得し、課題を解決するために活用できる。
2. 自ら学び工夫するとともに、他者と協力して課題の解決に積極的に行動できる。
3. 環境に配慮しながら技術者倫理に沿って自律的に判断し、行動できる。
4. 広い視野と豊かな心を備えて社会に貢献できる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

機械工学科は、ものづくりの精神を基本とし、機械技術者としての基礎能力や専門技術を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的機械技術者を育成することを目指しています。そのため以下のように教育課程を編成します。

1. 低学年では、数学、物理、化学などの工学の基礎科目、コミュニケーション能力の基礎となる国語、英語、および一般教養の基礎となる社会科学科目を多く配置し、高学年に進むに従い機械工学に関する専門科目が多くなるくさび形に授業科目を編成することで、広い視野と豊かな心を育み、社会に貢献する姿勢を養います。
2. 低学年より実験・実習を設定して技術の実際に触れることで技術への理解を促すとともに、高学年ではインターンシップや卒業研究によりエンジニアリング・スピリットを体得した専門技術者としての能力を養成します。
3. 機械工業に必要な専門知識および技術が効果的に身につくよう専門科目を編成します。
4. 各科目の単位修得の認定は主に定期試験によるものとし、実験・実習科目などレポートによって認定するものもあります。認定の基準はいずれも評価点 60 点以上とします。

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

機械工学科は、ものづくりの精神を基本とし、機械技術者としての基礎能力や専門技術を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、社会に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的機械技術者を育成することを目指しています。そのため以下のような入学者を求めています。

1. 機械技術者になる意欲を持っている人
2. 理数系の基礎学力が身に付いている人
3. 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
4. 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人

電気電子工学科

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマポリシー）

電気電子工学科は、先端技術であるエレクトロニクスと ICT、およびこれらを支える電気エネルギーの専門知識を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、高度情報通信社会に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的電気電子技術者を育成することを目指しています。そのため以下のような能力を身につけ所定の単位を修得した学生に卒業を認定します。

1. 電気電子工学に必要な、エレクトロニクス、情報通信技術（ICT）、電気エネルギー、パワーエレクトロニクス、および電気電子工学に関連した周辺技術に関する基礎的な知識と技術を修得し、課題を解決するために活用できる。
2. 自ら学び工夫するとともに、他者と協力して課題の解決に積極的に行動できる。
3. 環境に配慮しながら技術者倫理に沿って自律的に判断し、行動できる。
4. 広い視野と豊かな心を備えて社会に貢献できる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

電気電子工学科は、先端技術であるエレクトロニクスと ICT、およびこれらを支える電気エネルギーの専門知識を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、高度情報通信社会に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的電気電子技術者を育成することを目指しています。そのため以下のように教育課程を編成します。

1. 低学年では、数学、物理、化学などの工学の基礎科目、コミュニケーション能力の基礎となる国語、英語、および一般教養の基礎となる社会科学科目を多く配置し、高学年に進むに従い電気電子工学に関する専門科目が多くなるくさび形に授業科目を編成することで、広い視野と豊かな心を育み、社会に貢献する姿勢を養います。
2. 低学年より実験・実習を設定して技術の実際に触れることで技術への理解を促すとともに、高学年ではインターンシップや卒業研究によりエンジニアリング・スピリットを体得した専門技術者としての能力を養成します。
3. 電気電子工学に必要な専門知識および技術が効果的に身につくよう専門科目を編成します。
4. 各科目の単位修得の認定は主に定期試験によるものとし、実験・実習科目などレポートによって認定するものもあります。認定の基準はいずれも評価点 60 点以上とします。

入学者受入れの方針（アドミッションポリシー）

電気電子工学科は、先端技術であるエレクトロニクスと ICT、およびこれらを支える電気エネルギーの専門知識を修得するとともに広い視野と豊かな心を備えて、高度情報通信社会に貢献できる自立の精神に富んだ実践的、創造的電気電子技術者を育成することを目指しています。そのため以下のような入学者を求めています。

1. 電気電子技術者になる意欲を持っている人
2. 理数系の基礎学力が身に付いている人
3. 自立心があり、社会的ルールを守って行動できる人
4. 他の人と対話を通して相互理解を深めようとする人

基準2 教育組織及び教員・教育支援者等

全国高専 学科系統別クラス数・括り入試学校数（令和元年度）

| 学科系統 | 久留米 | 有明 | 北九州 | 佐世保 | 大分 | 熊本C | 八代C | 都城 | 鹿児島 | 沖縄 | その他 | 全国計 |
|----------------|-----|----|-----|-----|----|-----|-----|----|-----|----|-----|-----|
| 機械系 | 1 | 1 | 2 | 1 | 1 | | 1 | 1 | 1 | 1 | 41 | 51 |
| 電気・電子系 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | | 1 | 2 | | 41 | 51 |
| 情報系 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | | | 1 | 2 | 38 | 47 |
| 建設・建築系 | | 1 | | | 1 | | 1 | 1 | 1 | | 31 | 36 |
| 化学・生物系 | 1 | 2 | 1 | 1 | | | 1 | 1 | | 1 | 24 | 32 |
| 商船系 | | | | | | | | | | | 5 | 5 |
| 材料系 | 1 | | | | | | | | | | 3 | 4 |
| その他 | | | | | | | | | | | 5 | 5 |
| 括り入試 (学科決め) | 2年 | | 1 | | | | | | | | 8 | 9 |
| | 3年 | | | 1 | | | | | | | 1 | 2 |

令和元年12月13日（金）

令和元年度 外部評価委員会
江崎教務主事



独立行政法人国立高等専門学校機構
久留米工業高等専門学校

学校・学科・専攻科改組の変遷 ()内は2クラス以上の場合のクラス数

| 学校 | 期 | 年 | 機械系 | | | | | 電気系 | 情報系 | 化学生物系 | | 材料系 | 専攻科 | 年 |
|----------|-----|-----|----------|-------|-------|-------|----------|---------|---------|----------|-------|-----------|------------|-----|
| | | | 機械科 | 精密機械科 | 工作機械科 | 鉱山機械科 | 採鉱科 | | | | | | | |
| 高等工業学校 | 1期 | S14 | 機械科 | 精密機械科 | 工作機械科 | 鉱山機械科 | 採鉱科 | | | | | | | S14 |
| | 2期 | S15 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 (2) | | | | | | | |
| | 4期 | S17 | 〃 (2) | 〃 | 〃 | 〃 | 〃 (2) | | | 化学工業科 | | | | S17 |
| 工業専門学校 | 6期 | S19 | 〃 (4) | 〃 | | 〃 | 〃 (2) | | | 〃 (2) | | | | S19 |
| | 8期 | S21 | 〃 | 〃 | | 〃 | 〃 | | | 〃 | ゴム工業科 | | | S21 |
| 工業短期大学 | 1期 | S32 | 〃 | | | | | | | 工業化学科 | | | | S32 |
| | 3期 | S34 | 〃 | | | | 電気科 | | | 〃 | | | | S34 |
| | 5期 | S36 | 〃 (2) | | | | 〃 | | | 〃 | | 金属学科 | | S36 |
| 工業高等専門学校 | 1期 | S39 | 機械工学科 | | | | | 電気工学科 | | 〃 | | 金属学科 | | S39 |
| | 2期 | S40 | 〃 (2) | | | | | 〃 | | 〃 | | 金属工学科 | | S40 |
| | 27期 | S62 | 〃 (2) | | | | | 〃 | | 〃 | | 材料工学科 | | S62 |
| | 31期 | H3 | 〃 | | | | | 〃 | 制御情報工学科 | 〃 | | 〃 | 専攻科 (2) | H3 |
| | 36期 | H8 | 〃 | | | | | 〃 | 〃 | 生物応用化学科 | | 〃 | 〃 (2) | H8 |
| | 41期 | H13 | 〃 | | | | | 電気電子工学科 | 〃 | 〃 | | 〃 | 〃 (2) | H13 |
| | 57期 | H29 | 〃 | | | | | 〃 | 〃 | 〃 | | 材料システム工学科 | 〃 (2) | H29 |

教職員配置

| | | 校長 | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 合計 |
|---------------|-----------|----|----|-----|----|----|----|
| 標準人員枠（定員） | | 1 | 35 | 32 | - | 8 | 76 |
| 実行人員枠 （現員） | 校長 | 1 | - | - | - | - | 1 |
| | 機械工学科 | - | 6 | 4 | - | 1 | 11 |
| | 電気電子工学科 | - | 5 | 3 | 1 | 1 | 10 |
| | 制御情報工学科 | - | 5 | 2 | 1 | 2 | 10 |
| | 生物応用化学科 | - | 5 | 4 | - | 2 | 11 |
| | 材料システム工学科 | - | 4 | 3 | 1 | 2 | 10 |
| | 一般科目（文科系） | - | 5 | 6 | - | - | 11 |
| | 一般科目（理科系） | - | 3 | 6 | 1 | 1 | 11 |
| 合計 | | 1 | 33 | 28 | 4 | 9 | 75 |

※フルタイム再雇用教員（特任教授）は助教に含みます。

※現員には高専間人事交流等により転出した教員を含みません。

| | | | | | | |
|------------|---|----|----|--|---|----|
| 教育体制整備前 | 1 | 36 | 35 | | 7 | 79 |
| 教育体制整備 人員枠 | 1 | 37 | 36 | | | 74 |
| 教育体制整備特例流用 | 1 | 35 | 32 | | 8 | 76 |

令和元年12月13日（金）

令和元年度 外部評価委員会
江崎教務主事



独立行政法人国立高等専門学校機構
久留米工業高等専門学校

教員の年齢構成

| 年齢 | 教授 | 准教授 | 講師 | 助教 | 合計 |
|---------|----|-----|----|----|----|
| 60歳～ | 10 | - | - | - | 10 |
| 50歳～59歳 | 19 | 7 | - | - | 26 |
| 40歳～49歳 | 6 | 17 | - | - | 23 |
| 30歳～39歳 | - | 4 | 4 | 5 | 13 |
| 20歳～29歳 | - | - | - | 2 | 2 |
| 合計 | 35 | 28 | 4 | 7 | 74 |

※フルタイム再雇用教員である特任教授は教授に含みます。 ※校長は除く。

(2) 職員

| | | 事務部長 | 課長 | 専門員 | 課長補佐 | 専門職員 | 係長 | 技術長 | 技術専門員 | 看護師 | 技術・一般職員等 | 合計 |
|---------------|------------|------|----|-----|------|------|----|-----|-------|-----|----------|----|
| 標準人員枠（定員） | | 1 | 2 | 4 | 9 | 1 | 2 | 1 | 2 | 1 | 25 | 45 |
| （現員） 実行人員枠 | 事務部 | 1 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | 1 |
| | 総務課 | - | 1 | 2 | 6 | - | - | - | - | - | 7 | 16 |
| | 学生課 | - | 1 | 2 | 3 | - | - | - | - | 1 | 5 | 12 |
| | 教育研究支援センター | - | - | - | - | 1 | 1 | - | - | - | 14 | 16 |
| 合計 | | 1 | 2 | 4 | 9 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 26 | 45 |

※「技術・一般職員等」とは、技術専門職員・技術職員・主任・一般職員・フルタイム再雇用職員等を指します。

令和元年12月13日（金）

令和元年度 外部評価委員会
江崎教務主事



独立行政法人国立高等専門学校機構
久留米工業高等専門学校

教職員の学歴・職歴等(平成31年4月1日現在)

| 学科等 | 人数 | | | 学歴(重複あり) | | | | | | 職歴(重複あり) | | | | | | | 学位 | | | | 認定専攻科 | 認定教員数 |
|------|----------------|-----|----|----------|-----|-----|------|-----|-----|----------|-----|------|-----|----|------|-----|----|----|----|-----|-------|-------|
| | 定員 特例 流用 | 現員 | 女性 | 本校 | 他高専 | 技科大 | 九州大学 | 他大学 | その他 | 他高専 | 技科大 | 九州大学 | 他大学 | 企業 | 研究機関 | その他 | 博士 | 修士 | 学士 | 技術士 | | |
| 機械 | 10 | 11 | 0 | 1 | 3 | 2 | 5 | 5 | 0 | 1 | 0 | 4 | 2 | 4 | 2 | 0 | 11 | 0 | 0 | 0 | 8 | |
| 電気 | 10 | 10 | 1 | 1 | 0 | 0 | 4 | 7 | 0 | 0 | 1 | 1 | 4 | 2 | 0 | 2 | 10 | 0 | 0 | 0 | 9 | |
| 制御 | 10 | 10 | 0 | 1 | 1 | 1 | 1 | 8 | 0 | 3 | 1 | 0 | 3 | 5 | 1 | 1 | 9 | 1 | 0 | 0 | 7 | |
| 生化 | 11 | 11 | 1 | 4 | 0 | 2 | 7 | 4 | 0 | 2 | 0 | 3 | 2 | 3 | 2 | 1 | 10 | 1 | 0 | 0 | 9 | |
| 材料 | 10 | 10 | 1 | 0 | 2 | 0 | 5 | 7 | 0 | 1 | 0 | 2 | 3 | 4 | 1 | 0 | 10 | 0 | 0 | 0 | 9 | |
| 一般文科 | 12 | 11 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 11 | 0 | 3 | 0 | 0 | 6 | 6 | 1 | 8 | 5 | 6 | 0 | 0 | 0 | |
| 一般理科 | 11 | 11 | 1 | 0 | 0 | 0 | 4 | 8 | 0 | 2 | 0 | 0 | 5 | 1 | 1 | 3 | 9 | 2 | 0 | 0 | 2 | |
| 校長枠 | 1 | 0 | 0 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 小計 | 75 | 74 | 7 | 7 | 6 | 5 | 26 | 50 | 0 | 12 | 2 | 10 | 25 | 25 | 8 | 15 | 64 | 10 | 0 | 0 | 44 | |
| 技術職員 | | 16 | 0 | 3 | 4 | 0 | 1 | 4 | 6 | 2 | 0 | 0 | 1 | 9 | 0 | 0 | 0 | 2 | 3 | 0 | | |
| 総務課 | 44 | 16 | 3 | 1 | 0 | 1 | 2 | 10 | 4 | 5 | 0 | 5 | 2 | 3 | 1 | 3 | 0 | 1 | 13 | 0 | | |
| 学生課 | | 12 | 4 | 0 | 0 | 0 | 2 | 4 | 6 | 4 | 0 | 1 | 4 | 3 | 0 | 2 | 0 | 0 | 6 | 0 | | |
| 小計 | 44 | 44 | 7 | 4 | 4 | 1 | 5 | 18 | 16 | 11 | 0 | 6 | 7 | 15 | 1 | 5 | 0 | 3 | 22 | 0 | | |
| 総計 | 119 | 118 | 14 | 11 | 10 | 6 | 31 | 68 | 16 | 23 | 2 | 16 | 32 | 40 | 9 | 20 | 64 | 13 | 22 | 0 | | |

教育改善会議（FD）実施状況

| | 開催日時 | タイトル |
|------------|------------------------|---|
| 平成27年度 第1回 | H27.6.5(金) 15:00～ | アクティブラーニングについて |
| 平成27年度 第2回 | H27.12.7(月) 15:00～ | 成績評価の厳密化と効率化を実現するルーブリック |
| 平成27年度 第3回 | H28.1.27(水) 16:00～ | 高等教育における障害者差別解消法と発達障害について |
| 平成28年度 第1回 | H28.7.6(水) 15:50～ | 知識基盤社会に必要な21世紀型スキルを育むアクティブラーニング |
| 平成28年度 第2回 | H28.11.9(水) 15:50～ | MCCを導入した高等教育の質保証 |
| 平成28年度 第3回 | H29.2.1(水) 16:00～ | 障害者差別解消法の学内の取り組みと実践について |
| 平成29年度 第1回 | H29.6.21(水) 15:50～ | 熊本高専におけるキャリア教育推進室の活動 |
| 平成29年度 第2回 | H29.11.22(水) 15:40～ | テーマ1) 他高専における教育改善の取り組み テーマ2) 教育研究支援センターの活動 |
| 平成29年度 第3回 | H30.1.31(水) 15:40～ | 学校における自殺予防: 教員として何が出来るか |
| 平成30年度 第1回 | H30.6.7(木) 15:00～ | Office365、Blackboardの紹介と実演 |
| 平成30年度 第2回 | H30.12.3(月) 15:00～ | 学生の事件・事故の予防と対応～学生の自死予防を中心に～ |
| 令和元年度 第1回 | R1.6.12(水) 15:00～ | 教育研究の高度化と外部資金の獲得 |
| 令和元年度 第2回 | R1.12.2(月) 15:00～ | 思春期から青年期の発達障害～基本と臨床の実際～ |

令和元年12月13日（金）

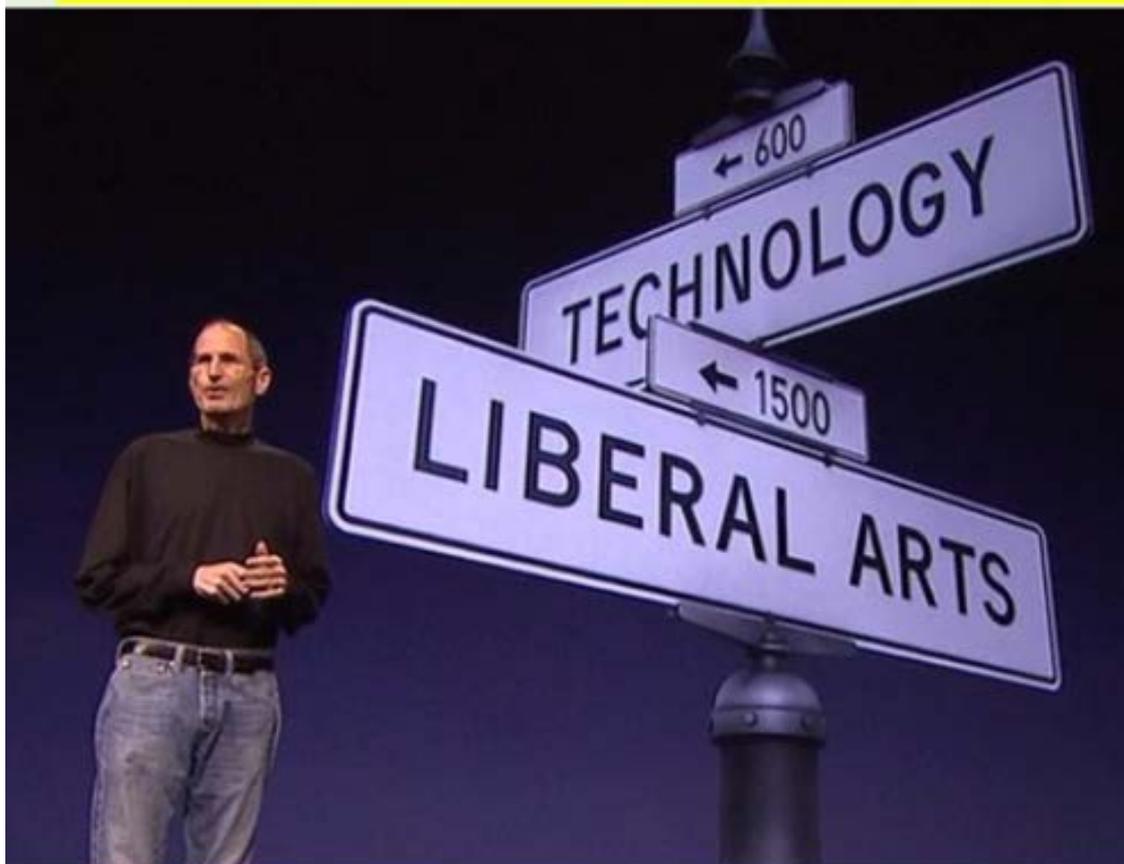
令和元年度 外部評価委員会
江崎教務主事



独立行政法人国立高等専門学校機構
久留米工業高等専門学校

基準5 準学士課程の教育課程・教育方法

平成31年度 カリキュラム改正



リベラルアーツ特論
(学生学科横断)

全学科横断科目
(教員学科横断)

技術者素養科目
(全学科導入)

学修単位増
(何を学ぶか ⇒
何ができるようになるか)

DS・AI 教育グッドプラクティス

AI時代に求められる人材育成プログラム

～デジタル社会の基礎知識「数理・DS・AI」教育グッドプラクティス～

募集要項

令和元年8月7日

内閣府 政策統括官(科学技術・イノベーション担当)

文 部 科 学 省 高 等 教 育 局

経 済 産 業 省 商 務 情 報 政 策 局

本校(全学科、専攻科)も上記に応募し、
内閣府のHP上に掲載される予定

| | | | | | | | | |
|----|------------------------|---|--|---|----|----|--|--|
| 92 | 久留米工業高等専門学校 (機械工学科) | ✓ | | 全 | 13 | 27 | 本校は5学科の専門学科から構成され、5年間一貫教育を通じて、実験や実習、企業インターンシップ等の体験的学習を重視した実践的専門科目と、教養を深め基礎能力を培うための一般科目を学んでいます。「自立の精神と創造性に富み、広い視野と豊かな心を兼ね備えた社会に貢献できる技術者の育成」を理念に掲げ、それを柱とし社会の要請等に応じてPDCAサイクルを回し教育課程の見直ししております。その中で今年度は学科(分野)横断と情報教育を骨子に改正を行っております。具体的には個々の専門分野を基盤としながら、他分野内容も個々の専門家から学ぶことで令和時代の技術者に必要不可欠な「広い視野」(Broad Vision)の涵養に努めています。またSociety5.0の理念に立脚して、専門分野によらずリテラシーとしてのICT教育の環境を整備し、日常の学生生活においてもOffice365元年としてICTを積極的に導入し、「Society5.0の社会に貢献できる技術者の育成」を目指した取組を行っています。 | ICTやAIの基礎となる数学等の理解と実践力の涵養、リテラシーとしてのICTの基礎的理解と実践力の涵養、情報収集、分析・思考及びプレゼンテーションツールとしてのICTの実践的活用、卒業研究を通してのAIやデータサイエンスの実践および発信力の涵養 |
|----|------------------------|---|--|---|----|----|--|--|

本校以外では、67大学・5高専が内閣府のHP上に掲載予定

令和元年12月13日 (金)

令和元年度 外部評価委員会
江崎教務主事



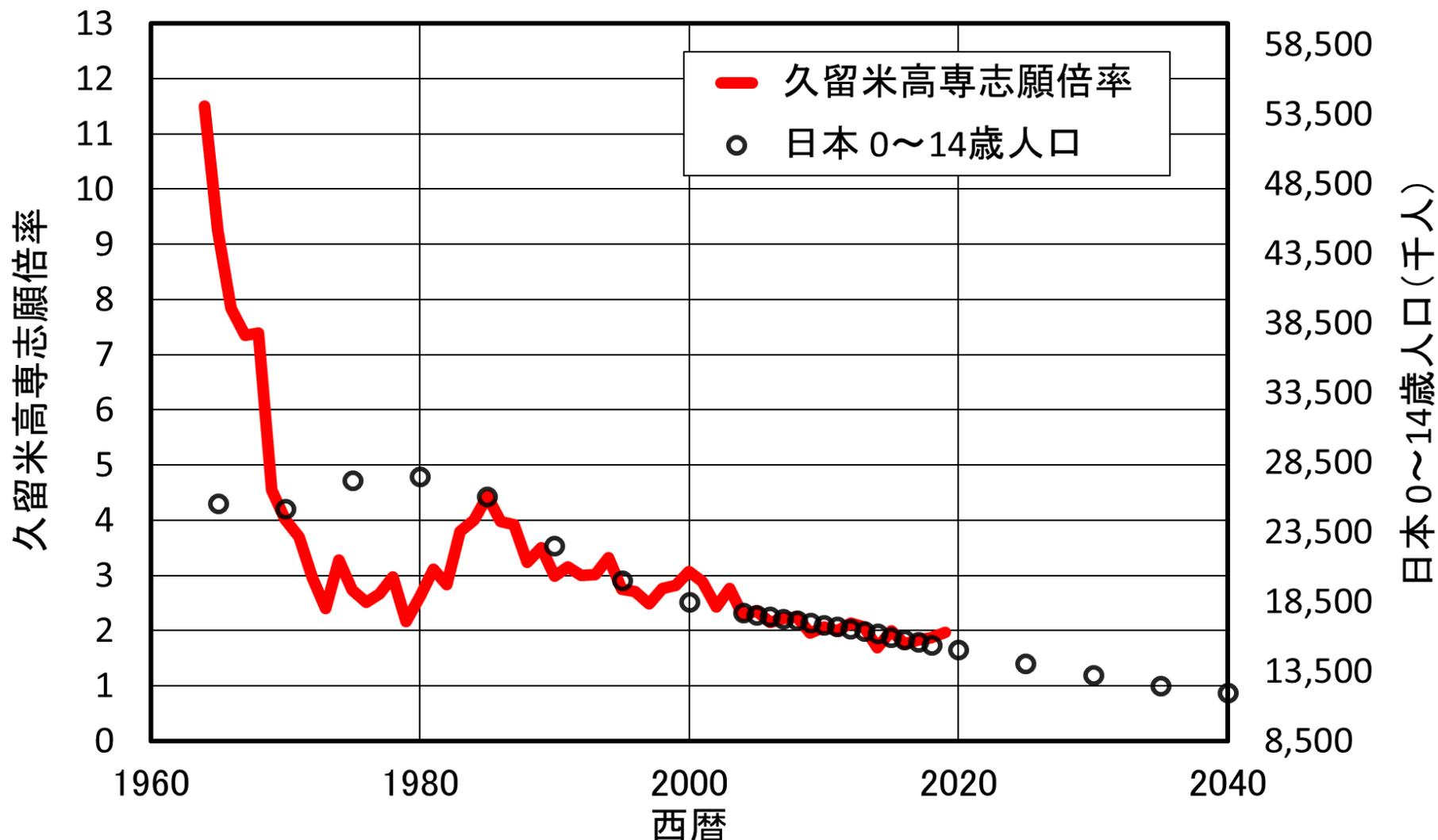
独立行政法人国立高等専門学校機構
久留米工業高等専門学校

基準6 準学士課程の学生の受入れ

高い偏差値(全国上位,下位,九州) (平成30年度)

| 順位 | 偏差値 | 高専名 | 順位 | 偏差値 | 高専名 |
|----|-----|------|----|-----|---------|
| 1 | 68 | 明石 | 22 | 63 | 都城 |
| 2 | 67 | 久留米 | 29 | 62 | 有明 |
| 2 | 67 | 鈴鹿 | 32 | 61 | 舞鶴 |
| 2 | 67 | 奈良 | 41 | 60 | 八代CP |
| 2 | 67 | 徳山 | 51 | 57 | 沖縄 |
| 6 | 66 | 佐世保 | 57 | 51 | サレジオ(私) |
| 6 | 66 | 大分 | 57 | 51 | 広島商船 |
| 10 | 65 | 熊本CP | 59 | 50 | 弓削商船 |
| 10 | 65 | 鹿児島 | 60 | 48 | 鳥羽商船 |
| 14 | 64 | 北九州 | 61 | 47 | 金沢(私) |

15歳未満人口の推移



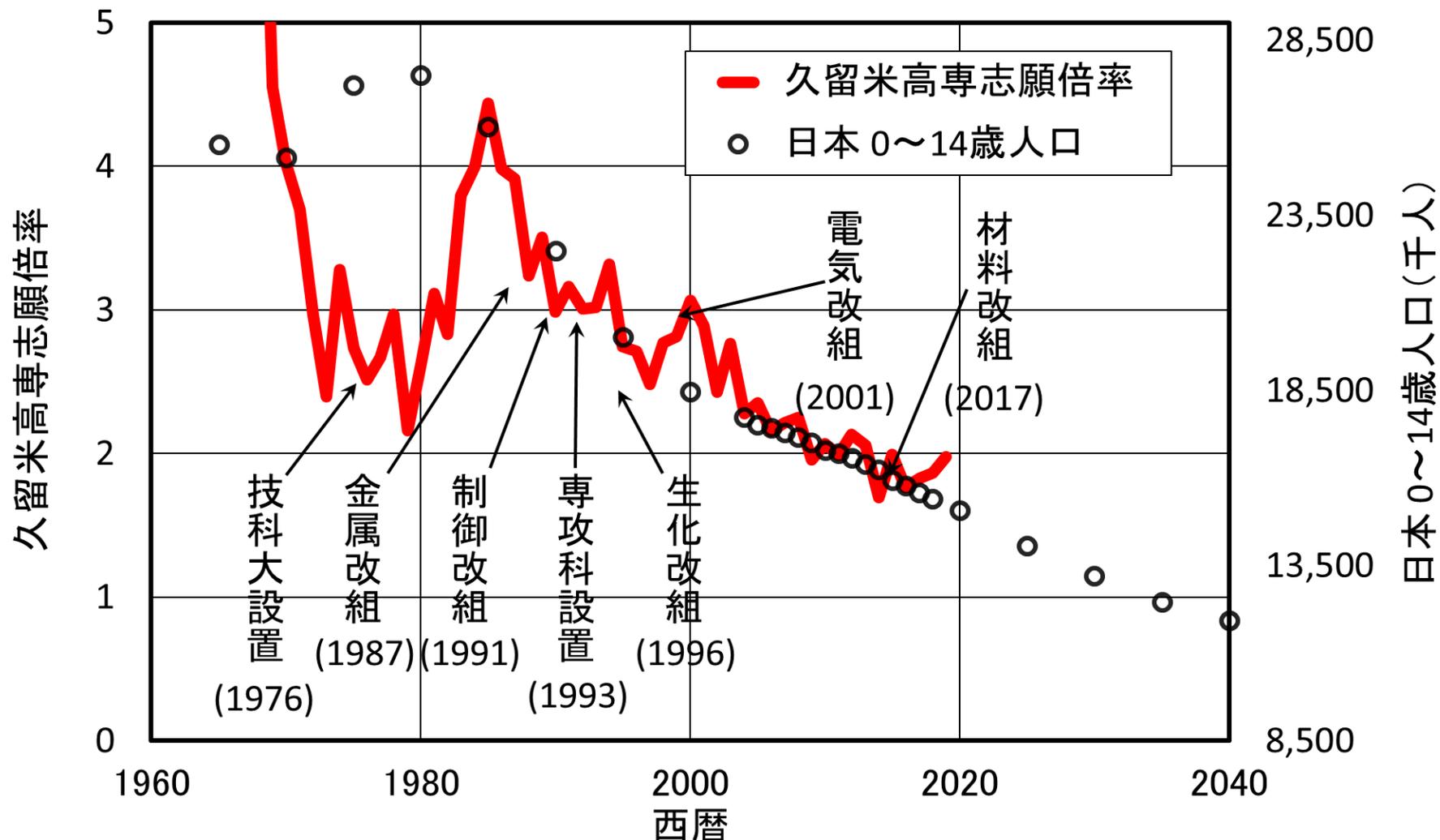
令和元年12月13日 (金)

令和元年度 外部評価委員会
江崎教務主事



独立行政法人国立高等専門学校機構
久留米工業高等専門学校

15歳未満人口の推移



令和元年12月13日 (金)

令和元年度 外部評価委員会
江崎教務主事



独立行政法人国立高等専門学校機構
久留米工業高等専門学校

基準7 準学士課程の学習・教育の成果

就職状況（平成30年度）

本科

就職希望者 : 87名(約47%)
 求人倍率 : 44倍
 就職率 : 100%

専攻科

就職希望者 : 13名(約40%)
 求人倍率 : 103倍
 就職率 : 100%

進学状況(平成30年度)

本科

進学希望者 : 99名(約53%)
 進学率 : 94%

専攻科

進学希望者 : 19名(約60%)
 進学率 : 100%

本科の主な大学編入先

東京大、東京工業大、東北大、
 京都大、大阪大、神戸大、
 九州大、九州工業大、熊本大、
 豊橋技術科学大、長岡技術科学大 等

専攻科の主な大学院進学先

東京大、東京工業大、大阪大、
 九州大、早稲田大 等

基準 1：教育の内部質保証システム

- 観点1-2-④ 専攻科課程の修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか
 - **満たしていると判断**
 - ガイドライン等を踏まえ、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）を定めているか：**専攻ごとに定めている**
 - 修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）が、「何ができるようになるか」に重点を置き、専攻科課程全体、各専攻の目的（本評価書Ⅱに記載したもの）と整合性を有しているか：**整合性を有している**
 - 修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）の中で、学生が修了時に身に付ける学力、資質・能力、並びに、養成しようとする人材像等の内容を明確に示しているか：**示している**
 - ✓ 策定した修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）がわかる資料：
 - 1-2-4-(1)-1 「専攻科の専攻ごとに定めているディプロマポリシー」
 - 1-2-4-(2)-1 「専攻科の教育目的・目標」
 - 1-2-4-(2)-2 「専攻科の教育目的と特徴」
 - 1-2-4-(3)-1 「各JABEEプログラムコースの学習・教育到達目標」

基準 1：教育の内部質保証システム

- 観点1-2-⑤ 専攻科課程の教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）が、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）と整合性をもち、学校の目的を踏まえて明確に定められているか
 - **満たしていると判断**
 - ガイドライン等を踏まえ、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を定めているか：**専攻ごとに定めている**
 - 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）は、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）との整合性を有している：**整合性を有している**
 - 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）は、どのような内容を含んでいるか：**どのような教育内容・方法を実施するかを示している、学習成果をどのように評価するかを示している**
 - ✓ 策定した教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）がわかる資料：
 - 1-2-5-(1)-1 「専攻科の専攻ごとに定めているカリキュラムポリシー」
 - 1-2-4-(2)-1 「専攻科の教育目的・目標」

基準 1：教育の内部質保証システム

- 観点1-2-⑥ 専攻科課程の入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）が学校の目的を踏まえて明確に定められているか
 - **満たしていると判断**
 - ガイドライン等を踏まえ、入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）を定めているか：**専攻ごとに定めている**
 - 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）は、学校の目的や専攻科課程の目的（本評価書Ⅱに記載したもの）、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）を踏まえて策定しているか：**目的・方針等を踏まえて策定している**
 - 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）には、「入学者選抜の基本方針」を明示しているか：**明示している**
 - 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）には、「求める学生像（受け入れる学生に求める学習成果を含む。）」を明示しているか：**明示している**
 - 受入れる学生に求める学習成果には「学力の3要素」に係る内容が含まれているか：**含まれている**
 - ✓ 策定した入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）：
 - 1-2-6-(1)-1 「専攻科の専攻ごとに定めているアドミッション・ポリシー」
 - 1-2-4-(2)-1 「専攻科の教育目的・目標」
 - 1-2-6-(3)-1 「学力による選抜の選抜方法」
 - 1-2-6-(4)-1 「調査書・推薦書・志望調書」
 - 1-2-6-(5)-1 「専攻科入学案内における教育目的・課程、コースごとのJABEEプログラム学習・教育到達目標」

基準8：専攻科課程の教育活動の状況

- 観点8-1-① 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、授業科目が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか
 - **満たしていると判断**
 - ✓ 当専攻科では5つの全プログラムがJABEE認定を受けている。JABEE基準2の2.1（教育課程の設計）を含めて適切に設定されており、本観点は全て満たされる
 - JABEE認定プログラムの結果を根拠として当該観点全体の判断については自己点検・評価結果欄に充てることが可能なため本観点の個別記入は割愛

基準8：専攻科課程の教育活動の状況

- 観点8-1-② 準学士課程の教育との連携、及び準学士課程の教育からの発展等を考慮した教育課程となっているか
 - **満たしていると判断**
 - ✓ 当専攻科では5つの全プログラムがJABEE認定を受けている。JABEE基準2（教育手段）において適切に設定されており、本観点は全て満たされる
 - JABEE認定プログラムの結果を根拠として当該観点全体の判断については自己点検・評価結果欄に充てることが可能なため本観点の個別記入は割愛

基準8：専攻科課程の教育活動の状況

- 観点8-1-③ 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導上の工夫がなされているか
 - **満たしていると判断**
 - ✓ 当専攻科では5つの全プログラムがJABEE認定を受けている。JABEE基準2（教育手段）において適切に設定されており、本観点は全て満たされる
 - JABEE認定プログラムの結果を根拠として当該観点全体の判断については自己点検・評価結果欄に充てることが可能なため本観点の個別記入は割愛

基準8：専攻科課程の教育活動の状況

- 観点8-1-④ 教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に基づき、教養教育や研究指導が適切に行われているか
 - **満たしていると判断**
 - ✓ 特例適用専攻科の審査における学修総まとめ科目を担当する教員の個人調書（様式第3号等）、認定専攻科の教育の実施状況の審査における専攻科の授業科目を担当する教員の個人調書（様式第5号等）を提示して認定を受けていることから、本観点は全て満たされる
 - 特例適用専攻科の結果を根拠として当該観点全体の判断については自己点検・評価結果欄に充てることが可能なため本観点の個別記入は割愛

基準8：専攻科課程の教育活動の状況

- 観点8-1-⑤ 成績評価・単位認定基準が、教育課程の編成及び実施に関する方針（カリキュラム・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、成績評価・単位認定が適切に実施されているか
 - **満たしていると判断**
 - ✓ 当専攻科では5つの全プログラムがJABEE認定を受けている。JABEE基準2のJABEE基準2の2.1（教育課程の設計）および基準3（学習・教育到達目標の達成）を含めて適切に認定されており、本観点は全て満たされる
 - JABEE認定プログラムの結果を根拠として当該観点全体の判断については自己点検・評価結果欄に充てることが可能なため本観点の個別記入は割愛

基準8：専攻科課程の教育活動の状況

- 観点8-1-⑥ 修了認定基準が、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に従って、組織として策定され、学生に周知されているか。また、修了認定が適切に実施されているか
 - **満たしていると判断**
 - ✓ 当専攻科では5つの全プログラムがJABEE認定を受けている。JABEE基準2のJABEE基準2の2.1（教育課程の設計）および基準3（学習・教育到達目標の達成）を含めて適切に認定されており、本観点は全て満たされる
 - JABEE認定プログラムの結果を根拠として当該観点全体の判断については自己点検・評価結果欄に充てることが可能なため本観 points の個別記入は割愛

基準8：専攻科課程の教育活動の状況

- 観点8-2-① 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な入学者選抜方法が採用されており、実際の学生の受入れが適切に実施されているか。
 - **満たしていると判断**
 - アドミッション・ポリシーに沿った入学者選抜方法：**なっている**
 - ✓ 専攻科学生募集要項・入学案内：8-2-1-(1)-01_募集要項
 - ✓ 入学者選抜方法に係る合否判定資料：8-2-1-(1)-02_合否判定基準、専攻科入試関係の合否査定資料
 - ✓ 入学者選抜方法に係る面接資料：8-2-1-(1)-03_調査書・推薦書・志望調書および推薦選抜面接評価書
 - ✓ 専攻科生の資質に関する資料：1-1-2-(1)-04_専攻科入学時および修了時の学生アンケート

基準8：専攻科課程の教育活動の状況

- 観点8-2-② 入学者の受入れに関する方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生を受入れているかどうかを検証するための取組が行われており、その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。
 - **満たしていると判断**
 - 検証及び検証結果を改善に役立てる体制整備：**整備している**
 - ✓ 検証の体制に関する資料：8-2-2-(1)-01_入学試験運営委員会規則
 - ✓ 改善に役立てる体制に関する資料：8-2-2-(1)-02_専攻科入試関係の合否査定資料
 - アドミッション・ポリシーに沿った入学生であるかの検証：**行っている**
 - ✓ 検証の実施に関する資料：8-2-2-(2)-01_専攻科入学時および修了時の学生アンケート
 - 検証結果の入学者選抜への改善：**改善に役立てている**
 - ✓ 検証の結果を改善に役立てている状況に関する資料：8-2-2-(2)-02_専攻科委員会のアドミッション・ポリシーに関する議事録

基準8：専攻科課程の教育活動の状況

- 観点8-2-③ 実入学者数が、入学定員を大幅に超過、又は大幅に不足している状況になっていないか。また、その場合には、入学者選抜方法を改善するための取組が行われるなど、入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか
 - **満たしていると判断**
 - 専攻ごとの学生定員数の学則等での規定：**定めている**
 - ✓ 学則等の該当箇所の資料：**8-2-3-(1)-01_学則第48条**
 - 専攻ごとの入学定員と実入学者数の把握、改善を図る体制整備：**整備している**
 - ✓ 体制の整備に係る規程等がわかる資料：**8-2-3-(2)-01_入学試験合格者査定委員会**
 - 専攻ごとの入学定員に対する実入学者数の適正化：**適正である**
 - ✓ **【別紙様式】平均入学定員充足率計算表**
 - ✓ 過去5年間の入学定員と実入学者数を示す資料：**8-2-3-(3)-01_実入学者数の推移**
 - 実入学者の入学定員大幅超過、大幅不足状況での改善の取組：**行っている**
 - ✓ 実入学者数の改善取組、教育環境等の改善の対応事例の資料：**8-2-3-(4)-01_講義室の拡張改修、8-2-3-(4)-02_受講者を分割した授業例**

基準8：専攻科課程の教育活動の状況

- 観点8-3-① 成績評価・修了認定の結果から判断して、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育・研究の成果が認められるか
 - **満たしていると判断**
 - 修了時に身に付ける学力、資質・能力について、成績評価・修了認定の結果から学習・教育・研究の成果を把握・評価するための体制整備：**整備している**
 - ✓ 体制の整備状況がわかる資料：8-3-1-(1)-01 学校運営システム図・PDCAシステム図、8-3-1-(1)-02 専攻科委員会規則(第5条)、8-3-1-(1)-03 専攻科の修了を審議する卒業・修了規則、8-3-1-(1)-04 専攻科における学業成績の評価並びに単位の認定及び修了に関する規程
 - 修了時に身に付ける学力、資質・能力について、成績評価・修了認定結果からの学習・教育・研究の成果の把握・評価：**把握・評価している**
 - ✓ 成績評価・修了認定等に関するデータ・資料：8-3-1-(2)-01 学修成績評価一覧、8-3-1-(2)-02 JABEE プログラム達成度評価表、8-3-1-(2)-03 学修総まとめ科目の成績評価表
 - ✓ 把握・評価の実施状況がわかる資料：8-3-1-(2)-04 専攻科修了査定資料、8-3-1-(2)-05 JABEE認定資料、8-3-1-(2)-06 学修総まとめ科目の成績評価表、8-3-1-(2)-07 専攻科修了査定資料

基準8：専攻科課程の教育活動の状況

- 観点8-3-② 達成状況に関する学生・修了生・進路先関係者等からの意見の聴取の結果から判断して、修了の認定に関する方針（ディプロマ・ポリシー）に沿った学習・教育・研究の成果が認められるか
 - **満たしている**と判断
 - 修了時に身に付ける学力、資質・能力について、学生・修了生・進路先関係者等からの意見聴取の結果に基づく学習・教育・研究の成果を把握・評価するための体制整備：**整備している**
 - 修了時に身に付けた学力、資質・能力について、修了時の学生に対する意見聴取の結果から学習・教育・研究の成果の把握・評価：**行っている**
 - 修了時に身に付けた学力、資質・能力について、修了生（修了直後でない者）に対する意見聴取の結果から学習・教育・研究の成果の把握・評価：**行っている**
 - 修了時に身に付けた学力、資質・能力について、進路先関係者等に対する意見聴取の結果から学習・教育・研究の成果の把握・評価を行っているか把握・評価：**行っている**
 - 評価結果から学習・教育・研究の成果が認められるか：**認められる**
 - ✓ 体制の整備状況がわかる資料：8-3-2-(1)-01_専攻科生への入学時ならびに修了時アンケート
 - ✓ 意見聴取の結果に関するデータ・資料：8-3-2-(1)-01_専攻科生への入学時ならびに修了時アンケート
 - ✓ 把握・評価の実施状況がわかる資料：8-3-1-(2)-01_専攻科生への入学時ならびに修了時アンケート結果からの「創造工学実験」について実施内容を検討した資料

基準8：専攻科課程の教育活動の状況

- 観点8-3-③ 就職や進学といった修了後の進路の状況等の実績から判断して、学習・教育・研究の成果が認められるか
 - **満たしていると判断**
 - 学校として把握している最近5年間の就職率及び進学率から判断して、学習・教育・研究の成果が認められるか：**認められる**
 - 学校として把握している就職先や進学先は、各専攻の養成しようとする人材像に適したものとなっているか：**なっている**
 - ✓ **【別紙様式】修了者進路実績表：8-3-3-(1)-01_最近5年間の就職先および進学先を示した資料**

基準8：専攻科課程の教育活動の状況

- 観点8-3-④ 修了生の学位取得状況から判断して、学習・教育・研究の成果が認められるか
 - 満たしていると判断
 - 過去5年間の修了生の学位取得の状況から、学習等の成果が認められるか：**認められる**
 - ✓ 学位取得状況がわかる資料：**8-3-4-(1)-01 JABEE年次報告書、8-3-4-(1)-02_学位取得状況を示すデータ（専攻科ガイダンス資料）**
- 観点8-3-特記事項 「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等
 - 自己立案・問題解決型の「創造工学実験」、専門分野を超越して幅広く知識を修得する「先端工学特論」を専攻科1年生時に配置
 - 「創造工学実験」では校内経費から支援し、それを原資として自らテーマを立案・計画・遂行し、課題抽出から解決までを実施
 - 分野横断型のテーマの場合もあり、局所的な視点ではなく、多角的視点を身につけさせる分野を超えたグループミーティング
 - 「先端工学特論」では深い専門性に加え、九州圏外の大学院の講師を招聘した先端研究のトレンドの把握や異分野に対する視点を培う特別講義を開催、学生自身の学習意欲向上を図っている。

基準8：専攻科課程の教育活動の状況

● 優れている点

- 修了生は特例適用専攻科の認定以降では全て学位を取得している
- 同時にJABEEプログラム修了生である
- 専門分野に関連した幅広い企業や大学院へ就職または進学している

基準3 学習環境および学生支援 等

担当：学生主事

施設整備について

学生が無線LANを利用できるように、校内LAN（1000台のアクセスが可能）を設置した。

令和元年度をOffice365元年として、学生に対するメールの一斉配信、アンケート調査などをOffice365を利用して実施している。

（従来までは担任からの連絡や掲示板による紙媒体による通知のみ）

学生課横に設置された3台のディスプレイによる情報発信。

施設整備について（その2）

- ・ 本校から宮の陣駅までの堤防に街灯設置を久留米市に陳情
→今年度8月末に設置工事完了



- ・ 筑後川堤防工事に伴うキャンパス再整備
→プール、弓道場を新設し、学生用駐車場も整備
- ・ 男女共同参画委員会から、女子更衣室への防犯ブザー設置の要望
→今年度中の設置に向けて検討中

ICT環境について

図書館2階に2部屋のIT演習室を整備。

各学科の授業で必要なアプリケーションをインストールし、IT教育に利用。

各学科に「情報セキュリティー委員」を新設し、Office365の利用方法などの啓蒙活動を行っている。また、中学校への出前授業を行い、情報セキュリティーに関する啓蒙活動を行う予定にしている。

学生からのニーズの把握

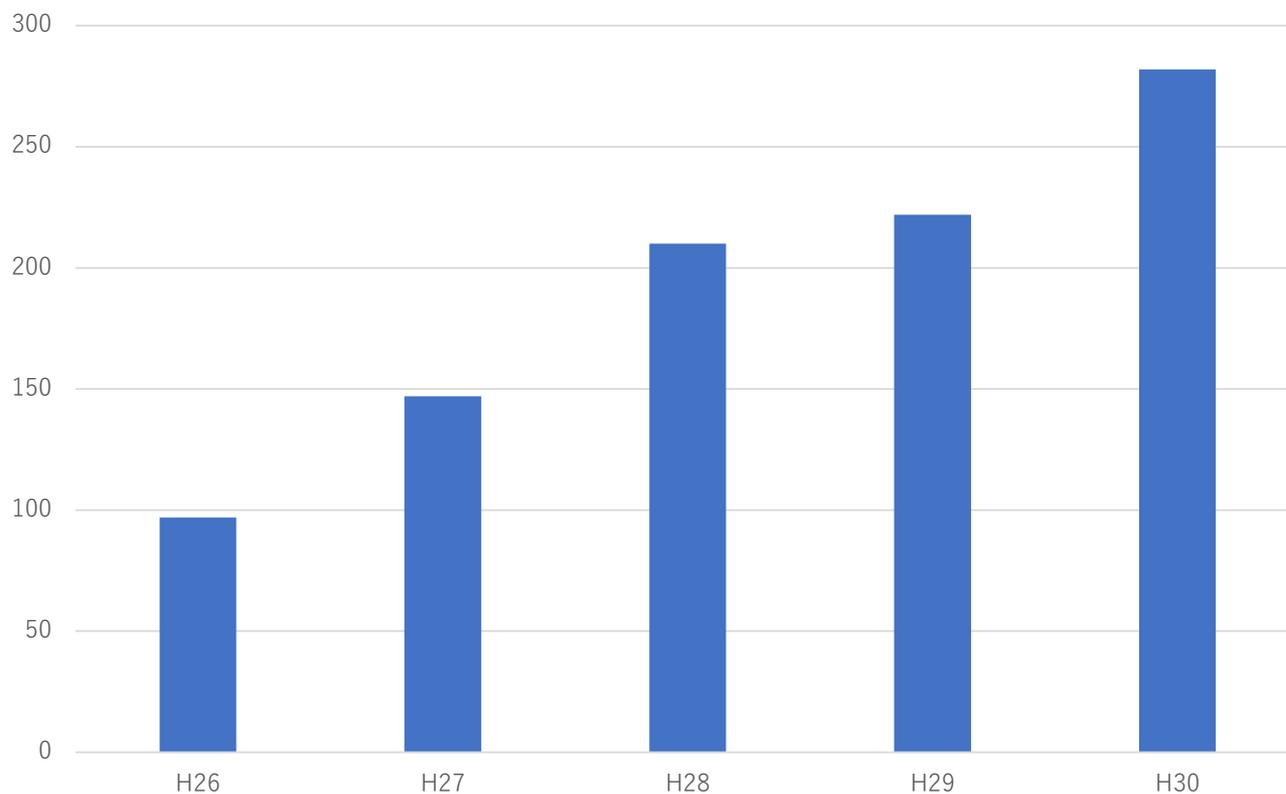
学生からのニーズを把握するため、

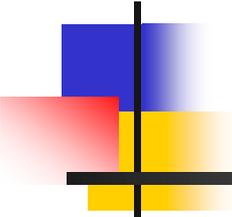
- ・ 校長と学生との懇談会（小森野トークwithプレジデント）の実施
- ・ 学生会と学生主事室による合同会議（月1回程度）
- ・ 久留米高専意見箱（本校ウェブサイト設置）

カウンセリング体制の強化

| | カウンセリング統計（平成26年度～平成30年度） | | | | | | | | | | | | | | カウンセラー雇用体制 | | |
|--------|--------------------------|----|----|----|----|----|------|-----|-----|-----|----|----|----|-----|--------------------|--------|-------------------------|
| | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 前期小計 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月 | 2月 | 3月 | 合計 | 資格 | 週合計時間 | 雇用時間 |
| 平成26年度 | 8 | 9 | 7 | 3 | 0 | 6 | 33 | 7 | 13 | 12 | 12 | 15 | 5 | 97 | 臨床心理士2名 | 38時間/月 | 隔週4時間、7時間 毎週4時間 |
| 平成27年度 | 7 | 13 | 21 | 10 | 0 | 7 | 58 | 21 | 10 | 13 | 21 | 24 | 0 | 147 | 臨床心理士2名 | 10時間/週 | 毎週6時間 毎週4時間 |
| 平成28年度 | 12 | 19 | 32 | 23 | 0 | 18 | 104 | 28 | 20 | 19 | 16 | 21 | 2 | 210 | 臨床心理士2名 | 10時間/週 | 毎週6時間 毎週4時間 |
| 平成29年度 | 10 | 27 | 25 | 17 | 0 | 18 | 97 | 30 | 28 | 21 | 24 | 20 | 2 | 222 | 臨床心理士2名 | 10時間/週 | 毎週6時間 毎週4時間 |
| 平成30年度 | 19 | 31 | 25 | 27 | 8 | 0 | 110 | 32 | 37 | 33 | 37 | 32 | 1 | 282 | 公認心理師3名 (臨床心理士) | 14時間/週 | 毎週6時間 毎週4時間 毎週4時間 |

カウンセリング件数の推移





外部評価委員会 説明用資料 寮務関係

久留米高専学生寮



筑水寮(男子寮:定員210名)

沿革(寮関係):
 昭和39年4月
 昭和42年3月
 昭和61年3月
 平成24年3月



つつじ寮(女子寮:定員30名)

久留米高専設立
 学生(男子)寮竣工
 学生(男子)寮増築工事竣工
 学生(女子)寮竣工

学生寮入寮者状況

平成30年度 寮生現員表

平成30年4月1日現在

| 学科・専攻名 | 区分 | 1年 | 2年 | 3年 | 4年 | 5年 | その他 | 計 | 備考 |
|---------------|----|----|----|---------|---------|---------|-----|----------|--|
| 機械工学科 | 男 | 9 | 5 | 6 | (留1) 12 | (留1) 6 | | (留2) 38 | <3月31日退寮> 5A ノー 5E ギー 5C クリス 3C 系数 創太 2A 千綿 拓斗 3S 濱本 昂希 3C 泉本あぐり (以上 男子6名、女子1名 計7名) |
| | 女 | 1 | | 1 | (留1) 1 | | | (留1) 3 | |
| | 計 | 10 | 5 | 7 | (留2) 13 | (留1) 6 | 0 | (留3) 41 | |
| 電気電子工学科 | 男 | 6 | 5 | (留1) 5 | | 9 | 3 | 28 | <4月1日入寮> 3E オユカー 3C シンディ 専2 古賀 大喜 専1 塩塚 大気 専1 野口 涼真 専1 溝上 智仁 5A 占野 誠詠 3C 竹下 直宏 2C 金丸 楓佳 1A 小澤 望夢 1A 木下 拓人 1A 小森 悠矢 1A 才田 隼輔 1A 酒見 凜斗 1A 高橋 大和 1A 津留崎 太郎 1A 三原 凜太郎 1A 結城 友衛 1E 大國 廣人 1E 川崎 太陽 1E 木寺 一之 1E 久保 武士 1E 柳原 壮太郎 1E 吉川 凌平 1S 酒井 大地 1S 佐藤 歩武 1S 高橋 翼 1S 田栗 青空 1S 西辻 伶央 1S 村里 伊咲 1C 伊藤 凜啓 1C 荻原 遥斗 1C 桑原 伊吹 1C 本梅 航羽 1C 吉武 大輝 1M 新地 亮公 1M 林 侑吾 1M 原 亘輝 1M 増永 光 1M 森山 亮太 1M 力武 拓海 1A 太田 杏奈 1C 宇治山 萌々 1C 江頭 萌瞳 1C 末次 桜和 1M 岡本 忍 1M 片江 しゆき 1M 後藤 凜 1M 長尾 映里奈 (以上 男子39名、女子10名 計49名) |
| | 女 | | | | | 1 | 1 | (留1) 2 | |
| | 計 | 6 | 5 | (留1) 5 | | 10 | 4 | 0 | |
| 制御情報工学科 | 男 | 6 | 8 | 7 | 2 | 5 | | 28 | <4月1日入寮> 3E オユカー 3C シンディ 専2 古賀 大喜 専1 塩塚 大気 専1 野口 涼真 専1 溝上 智仁 5A 占野 誠詠 3C 竹下 直宏 2C 金丸 楓佳 1A 小澤 望夢 1A 木下 拓人 1A 小森 悠矢 1A 才田 隼輔 1A 酒見 凜斗 1A 高橋 大和 1A 津留崎 太郎 1A 三原 凜太郎 1A 結城 友衛 1E 大國 廣人 1E 川崎 太陽 1E 木寺 一之 1E 久保 武士 1E 柳原 壮太郎 1E 吉川 凌平 1S 酒井 大地 1S 佐藤 歩武 1S 高橋 翼 1S 田栗 青空 1S 西辻 伶央 1S 村里 伊咲 1C 伊藤 凜啓 1C 荻原 遥斗 1C 桑原 伊吹 1C 本梅 航羽 1C 吉武 大輝 1M 新地 亮公 1M 林 侑吾 1M 原 亘輝 1M 増永 光 1M 森山 亮太 1M 力武 拓海 1A 太田 杏奈 1C 宇治山 萌々 1C 江頭 萌瞳 1C 末次 桜和 1M 岡本 忍 1M 片江 しゆき 1M 後藤 凜 1M 長尾 映里奈 (以上 男子39名、女子10名 計49名) |
| | 女 | 1 | | | 2 | 1 | | 4 | |
| | 計 | 6 | 9 | 7 | 4 | 6 | 0 | 32 | |
| 生物応用化学科 | 男 | 5 | 4 | 3 | (留1) 7 | (留1) 5 | | (留2) 24 | <4月1日入寮> 3E オユカー 3C シンディ 専2 古賀 大喜 専1 塩塚 大気 専1 野口 涼真 専1 溝上 智仁 5A 占野 誠詠 3C 竹下 直宏 2C 金丸 楓佳 1A 小澤 望夢 1A 木下 拓人 1A 小森 悠矢 1A 才田 隼輔 1A 酒見 凜斗 1A 高橋 大和 1A 津留崎 太郎 1A 三原 凜太郎 1A 結城 友衛 1E 大國 廣人 1E 川崎 太陽 1E 木寺 一之 1E 久保 武士 1E 柳原 壮太郎 1E 吉川 凌平 1S 酒井 大地 1S 佐藤 歩武 1S 高橋 翼 1S 田栗 青空 1S 西辻 伶央 1S 村里 伊咲 1C 伊藤 凜啓 1C 荻原 遥斗 1C 桑原 伊吹 1C 本梅 航羽 1C 吉武 大輝 1M 新地 亮公 1M 林 侑吾 1M 原 亘輝 1M 増永 光 1M 森山 亮太 1M 力武 拓海 1A 太田 杏奈 1C 宇治山 萌々 1C 江頭 萌瞳 1C 末次 桜和 1M 岡本 忍 1M 片江 しゆき 1M 後藤 凜 1M 長尾 映里奈 (以上 男子39名、女子10名 計49名) |
| | 女 | 3 | 6 | (留1) 4 | 2 | | | 15 | |
| | 計 | 8 | 10 | (留1) 7 | (留1) 9 | (留1) 5 | 0 | (留2) 39 | |
| 材料工学科 | 男 | 6 | 2 | | 5 | 5 | | 18 | <4月1日入寮> 3E オユカー 3C シンディ 専2 古賀 大喜 専1 塩塚 大気 専1 野口 涼真 専1 溝上 智仁 5A 占野 誠詠 3C 竹下 直宏 2C 金丸 楓佳 1A 小澤 望夢 1A 木下 拓人 1A 小森 悠矢 1A 才田 隼輔 1A 酒見 凜斗 1A 高橋 大和 1A 津留崎 太郎 1A 三原 凜太郎 1A 結城 友衛 1E 大國 廣人 1E 川崎 太陽 1E 木寺 一之 1E 久保 武士 1E 柳原 壮太郎 1E 吉川 凌平 1S 酒井 大地 1S 佐藤 歩武 1S 高橋 翼 1S 田栗 青空 1S 西辻 伶央 1S 村里 伊咲 1C 伊藤 凜啓 1C 荻原 遥斗 1C 桑原 伊吹 1C 本梅 航羽 1C 吉武 大輝 1M 新地 亮公 1M 林 侑吾 1M 原 亘輝 1M 増永 光 1M 森山 亮太 1M 力武 拓海 1A 太田 杏奈 1C 宇治山 萌々 1C 江頭 萌瞳 1C 末次 桜和 1M 岡本 忍 1M 片江 しゆき 1M 後藤 凜 1M 長尾 映里奈 (以上 男子39名、女子10名 計49名) |
| | 女 | 4 | | | 1 | 1 | | 6 | |
| | 計 | 10 | 2 | 0 | 6 | 6 | 0 | 24 | |
| 小計 | 男 | 32 | 24 | (留1) 21 | (留2) 35 | (留2) 24 | 0 | (留5) 136 | <4月1日入寮> 3E オユカー 3C シンディ 専2 古賀 大喜 専1 塩塚 大気 専1 野口 涼真 専1 溝上 智仁 5A 占野 誠詠 3C 竹下 直宏 2C 金丸 楓佳 1A 小澤 望夢 1A 木下 拓人 1A 小森 悠矢 1A 才田 隼輔 1A 酒見 凜斗 1A 高橋 大和 1A 津留崎 太郎 1A 三原 凜太郎 1A 結城 友衛 1E 大國 廣人 1E 川崎 太陽 1E 木寺 一之 1E 久保 武士 1E 柳原 壮太郎 1E 吉川 凌平 1S 酒井 大地 1S 佐藤 歩武 1S 高橋 翼 1S 田栗 青空 1S 西辻 伶央 1S 村里 伊咲 1C 伊藤 凜啓 1C 荻原 遥斗 1C 桑原 伊吹 1C 本梅 航羽 1C 吉武 大輝 1M 新地 亮公 1M 林 侑吾 1M 原 亘輝 1M 増永 光 1M 森山 亮太 1M 力武 拓海 1A 太田 杏奈 1C 宇治山 萌々 1C 江頭 萌瞳 1C 末次 桜和 1M 岡本 忍 1M 片江 しゆき 1M 後藤 凜 1M 長尾 映里奈 (以上 男子39名、女子10名 計49名) |
| | 女 | 8 | 7 | (留1) 5 | (留1) 7 | (留1) 3 | 0 | (留3) 30 | |
| | 計 | 40 | 31 | (留2) 26 | (留3) 42 | (留3) 27 | 0 | (留8) 166 | |
| 機械・電気システム工学専攻 | 男 | 4 | 2 | | | | | 6 | <4月1日入寮> 3E オユカー 3C シンディ 専2 古賀 大喜 専1 塩塚 大気 専1 野口 涼真 専1 溝上 智仁 5A 占野 誠詠 3C 竹下 直宏 2C 金丸 楓佳 1A 小澤 望夢 1A 木下 拓人 1A 小森 悠矢 1A 才田 隼輔 1A 酒見 凜斗 1A 高橋 大和 1A 津留崎 太郎 1A 三原 凜太郎 1A 結城 友衛 1E 大國 廣人 1E 川崎 太陽 1E 木寺 一之 1E 久保 武士 1E 柳原 壮太郎 1E 吉川 凌平 1S 酒井 大地 1S 佐藤 歩武 1S 高橋 翼 1S 田栗 青空 1S 西辻 伶央 1S 村里 伊咲 1C 伊藤 凜啓 1C 荻原 遥斗 1C 桑原 伊吹 1C 本梅 航羽 1C 吉武 大輝 1M 新地 亮公 1M 林 侑吾 1M 原 亘輝 1M 増永 光 1M 森山 亮太 1M 力武 拓海 1A 太田 杏奈 1C 宇治山 萌々 1C 江頭 萌瞳 1C 末次 桜和 1M 岡本 忍 1M 片江 しゆき 1M 後藤 凜 1M 長尾 映里奈 (以上 男子39名、女子10名 計49名) |
| | 女 | | | | | | | 0 | |
| | 計 | 4 | 2 | | | | | 6 | |
| 物質工学専攻 | 男 | | | | | | | 0 | <4月1日入寮> 3E オユカー 3C シンディ 専2 古賀 大喜 専1 塩塚 大気 専1 野口 涼真 専1 溝上 智仁 5A 占野 誠詠 3C 竹下 直宏 2C 金丸 楓佳 1A 小澤 望夢 1A 木下 拓人 1A 小森 悠矢 1A 才田 隼輔 1A 酒見 凜斗 1A 高橋 大和 1A 津留崎 太郎 1A 三原 凜太郎 1A 結城 友衛 1E 大國 廣人 1E 川崎 太陽 1E 木寺 一之 1E 久保 武士 1E 柳原 壮太郎 1E 吉川 凌平 1S 酒井 大地 1S 佐藤 歩武 1S 高橋 翼 1S 田栗 青空 1S 西辻 伶央 1S 村里 伊咲 1C 伊藤 凜啓 1C 荻原 遥斗 1C 桑原 伊吹 1C 本梅 航羽 1C 吉武 大輝 1M 新地 亮公 1M 林 侑吾 1M 原 亘輝 1M 増永 光 1M 森山 亮太 1M 力武 拓海 1A 太田 杏奈 1C 宇治山 萌々 1C 江頭 萌瞳 1C 末次 桜和 1M 岡本 忍 1M 片江 しゆき 1M 後藤 凜 1M 長尾 映里奈 (以上 男子39名、女子10名 計49名) |
| | 女 | | | | | | | 0 | |
| | 計 | 0 | 0 | | | | | 0 | |
| 小計 | 男 | 4 | 2 | | | | | 6 | <4月1日入寮> 3E オユカー 3C シンディ 専2 古賀 大喜 専1 塩塚 大気 専1 野口 涼真 専1 溝上 智仁 5A 占野 誠詠 3C 竹下 直宏 2C 金丸 楓佳 1A 小澤 望夢 1A 木下 拓人 1A 小森 悠矢 1A 才田 隼輔 1A 酒見 凜斗 1A 高橋 大和 1A 津留崎 太郎 1A 三原 凜太郎 1A 結城 友衛 1E 大國 廣人 1E 川崎 太陽 1E 木寺 一之 1E 久保 武士 1E 柳原 壮太郎 1E 吉川 凌平 1S 酒井 大地 1S 佐藤 歩武 1S 高橋 翼 1S 田栗 青空 1S 西辻 伶央 1S 村里 伊咲 1C 伊藤 凜啓 1C 荻原 遥斗 1C 桑原 伊吹 1C 本梅 航羽 1C 吉武 大輝 1M 新地 亮公 1M 林 侑吾 1M 原 亘輝 1M 増永 光 1M 森山 亮太 1M 力武 拓海 1A 太田 杏奈 1C 宇治山 萌々 1C 江頭 萌瞳 1C 末次 桜和 1M 岡本 忍 1M 片江 しゆき 1M 後藤 凜 1M 長尾 映里奈 (以上 男子39名、女子10名 計49名) |
| | 女 | 0 | 0 | | | | | 0 | |
| | 計 | 4 | 2 | | | | | 6 | |
| 合計 | 男 | 36 | 26 | (留1) 21 | (留2) 35 | (留2) 24 | 0 | (留5) 142 | <4月1日入寮> 3E オユカー 3C シンディ 専2 古賀 大喜 専1 塩塚 大気 専1 野口 涼真 専1 溝上 智仁 5A 占野 誠詠 3C 竹下 直宏 2C 金丸 楓佳 1A 小澤 望夢 1A 木下 拓人 1A 小森 悠矢 1A 才田 隼輔 1A 酒見 凜斗 1A 高橋 大和 1A 津留崎 太郎 1A 三原 凜太郎 1A 結城 友衛 1E 大國 廣人 1E 川崎 太陽 1E 木寺 一之 1E 久保 武士 1E 柳原 壮太郎 1E 吉川 凌平 1S 酒井 大地 1S 佐藤 歩武 1S 高橋 翼 1S 田栗 青空 1S 西辻 伶央 1S 村里 伊咲 1C 伊藤 凜啓 1C 荻原 遥斗 1C 桑原 伊吹 1C 本梅 航羽 1C 吉武 大輝 1M 新地 亮公 1M 林 侑吾 1M 原 亘輝 1M 増永 光 1M 森山 亮太 1M 力武 拓海 1A 太田 杏奈 1C 宇治山 萌々 1C 江頭 萌瞳 1C 末次 桜和 1M 岡本 忍 1M 片江 しゆき 1M 後藤 凜 1M 長尾 映里奈 (以上 男子39名、女子10名 計49名) |
| | 女 | 8 | 7 | (留1) 5 | (留1) 7 | (留1) 3 | 0 | (留3) 30 | |
| | 計 | 44 | 33 | (留2) 26 | (留3) 42 | (留3) 27 | 0 | (留8) 172 | |

(留)は留学生内数
その他は外国人特別聴講生

学生寮の運営・管理組織

寮務主事室(教員)

- ・主事(1名)
- ・主事補(3名)

学生課 寮生活支援係

係員2名, 寮母1名

寮務委員会(教職員)

- ・委員長(寮務主事)
- ・委員 寮務主事補(3名)
学科等代表(7名/兼任有)
学生課長・係員

寮生会(寮生)

- ・寮長(1名)
- ・副寮長(2名)
- ・美化委員(委員長、委員5名)
- ・文化委員(委員長、委員3名)
- ・会計委員長
- ・広報委員(委員長、委員1名)
- ・男子消防隊長(消防副隊長1名)
- ・女子消防隊長
- ・班長(各階に2~3名)

学生寮の様々な設備



男子寮エントランス



一人部屋
(高学年)



二人部屋
(低学年)

多目的室(学習室)



食堂

女子寮多目的スペース



男子寮洗濯室

令和元年12月13日(金)

令和元年度 外部評価委員会 中畷寮務主事

寮生 日課表

| | |
|----|---|
| 点呼 | 7時45分(休校日は実施しない) |
| 朝食 | 7時45分～8時30分(休校日は～9時00分) |
| 昼食 | 11時45分～12時45分 |
| 夕食 | 18時00分～19時30分(休校日は～19時00分) |
| 入浴 | 18時30分～21時55分 (シャワーのみ 7時00分～18時30分使用可) |
| 点呼 | 22時00分 |
| 清掃 | 22時05分～22時30分 |
| 学習 | 21時00分～23時00分 |
| 消灯 | 23時00分 |

※休校日とは、全学生が出席を要する日以外の日をいう。

宿直業務表

| 項目 | 場所 | 時刻 |
|----------------|-----|-------|
| 夕食検食 | 食堂 | 17:45 |
| 夜点呼 | | 22:00 |
| 点呼欠席者放送 | | 22:15 |
| 食堂施錠 浴場排水確認 | 宿直室 | 22:30 |
| 電子錠全確認 | | |
| 点呼欠席者連絡 | | |
| 常夜灯点灯 廊下灯消灯 | | |
| 女子寮・男子寮巡回 | 宿直室 | 23:30 |
| 留学生点呼欠席者確認 | | |
| 常夜灯消灯 | | |
| 朝食検食 | 食堂 | 7:30 |
| 朝点呼 | | 7:45 |

- ✓ 1日1名体制(月1回は、女性教員が女子寮の宿直)
- ✓ ①平日のみ、②休日とその前日、③両方のパターンでの宿直希望調査を行い、各教員の希望に沿えるように寮務主事室で調整し宿日直割振表を作成
- ✓ 宿直回数は、教員1名につき半期あたり概ね2～4回
- ✓ 寮務を除く主事、学科長、58歳以上の教員並びに特別な事情のある教員は宿直業務を免除

- ✓ 寮玄関を含む外部からの出入口は、22:30に自動ロックされ6:00まで入出不可



宿日直割振表(レイアウト)

| 令和元年度後期 学生寮宿日直割振表 | | | | | | | | | 令和元年度後期 学生寮宿日直割振表 | | | | | | | | | | |
|-------------------|---|--------|----------|----|---|---------------|----|----|-------------------|---------------|----|---------|---|--------|---------|--------|---|---------------|----|
| 2019年10月 | | | 2019年11月 | | | 2019年12月 | | | 2020年1月 | | | 2020年2月 | | | 2020年3月 | | | | |
| 日 | 曜 | 日直 | 宿直 | 日 | 曜 | 日直 | 宿直 | 日 | 曜 | 日直 | 宿直 | 日 | 曜 | 日直 | 宿直 | 日 | 曜 | 日直 | 宿直 |
| 1 | 火 | 寮務主事室B | | 1 | 金 | 寮務主事室E | | 1 | 日 | 外部委託 | | 1 | 水 | | | 1 | 日 | 主事室指定 外部委託 | |
| 2 | 水 | 寮務主事室C | | 2 | 土 | 外部委託 | | 2 | 月 | 寮務主事室A | | 2 | 木 | | | 2 | 日 | 外部委託 | |
| 3 | 木 | 寮務主事室D | | 3 | 日 | 寮生活支援係 | | 3 | 火 | 寮務主事室B | | 3 | 金 | | | 3 | 月 | 寮務主事室A | |
| 4 | 金 | 寮務主事室E | | 4 | 月 | 外部委託 | | 4 | 水 | 寮務主事室C | | 4 | 土 | | | 4 | 火 | 寮務主事室B | |
| 5 | 土 | 外部委託 | | 5 | 火 | 寮務主事室B | | 5 | 木 | 寮務主事室D | | 5 | 日 | | | 5 | 水 | 寮務主事室C | |
| 6 | 日 | 外部委託 | | 6 | 水 | 寮務主事室C | | 6 | 土 | 寮務主事室E | | 6 | 月 | | | 6 | 木 | 寮務主事室D | |
| 7 | 月 | 寮務主事室A | | 7 | 木 | 寮務主事室D | | 7 | 日 | 主事室指定 外部委託 | | 7 | 火 | (昼食なし) | | 7 | 金 | 寮務主事室E | |
| 8 | 火 | 寮務主事室B | | 8 | 金 | 寮務主事室E | | 8 | 日 | 外部委託 | | 8 | 水 | 寮務主事室C | | 8 | 土 | 外部委託 | |
| 9 | 水 | 寮務主事室C | | 9 | 土 | 外部委託 | | 9 | 月 | 寮務主事室A | | 9 | 木 | 寮務主事室D | | 9 | 日 | 外部委託 | |
| 10 | 木 | 寮務主事室D | | 10 | 日 | 外部委託 | | 10 | 火 | 寮務主事室B | | 10 | 金 | 寮務主事室E | | 10 | 月 | 寮務主事室A | |
| 11 | 金 | 寮務主事室E | | 11 | 月 | 寮務主事室A | | 11 | 水 | 寮務主事室C | | 11 | 土 | 外部委託 | | 11 | 火 | 外部委託 | |
| 12 | 土 | 寮生活支援係 | | 12 | 火 | 寮務主事室B | | 12 | 木 | 寮務主事室D | | 12 | 日 | 外部委託 | | 12 | 水 | 寮務主事室C | |
| 13 | 日 | 外部委託 | | 13 | 水 | 寮務主事室C | | 13 | 金 | 寮務主事室E | | 13 | 月 | 外部委託 | | 13 | 木 | 寮務主事室D | |
| 14 | 月 | 外部委託 | | 14 | 木 | 寮務主事室D | | 14 | 土 | 外部委託 | | 14 | 火 | 寮務主事室B | | 14 | 金 | 寮務主事室E | |
| 15 | 火 | 寮務主事室B | | 15 | 日 | 寮務主事室E | | 15 | 日 | 外部委託 | | 15 | 水 | 寮務主事室C | | 15 | 土 | 外部委託 | |
| 16 | 水 | 寮務主事室C | | 16 | 土 | 主事室指定 外部委託 | | 16 | 月 | 寮務主事室A | | 16 | 木 | 寮務主事室D | | 16 | 日 | 外部委託 | |
| 17 | 木 | 寮務主事室D | | 17 | 日 | 外部委託 | | 17 | 火 | 寮務主事室B | | 17 | 金 | 寮務主事室E | | 17 | 月 | 寮務主事室A | |
| 18 | 金 | 寮務主事室E | | 18 | 月 | 寮務主事室A | | 18 | 水 | 寮務主事室C | | 18 | 土 | 外部委託 | | 18 | 火 | 寮務主事室B | |
| 19 | 土 | 外部委託 | | 19 | 火 | 寮務主事室B | | 19 | 木 | 寮務主事室D | | 19 | 日 | 外部委託 | | 19 | 水 | 寮務主事室C | |
| 20 | 日 | 外部委託 | | 20 | 水 | 寮務主事室C | | 20 | 金 | 寮務主事室E | | 20 | 月 | 寮務主事室A | | 20 | 木 | 寮務主事室D | |
| 21 | 月 | 寮務主事室A | | 21 | 木 | 寮務主事室D | | 21 | 土 | 外部委託 | | 21 | 火 | 寮務主事室B | | 21 | 金 | 寮務主事室E | |
| 22 | 火 | 外部委託 | | 22 | 金 | 寮務主事室E | | 22 | 日 | 外部委託 | | 22 | 水 | 寮務主事室C | | 22 | 土 | 外部委託 | |
| 23 | 水 | 寮務主事室C | | 23 | 土 | 外部委託 | | 23 | 月 | 寮務主事室A | | 23 | 木 | 寮務主事室D | | 23 | 日 | 外部委託 | |
| 24 | 木 | 寮務主事室D | | 24 | 日 | 外部委託 | | 24 | 火 | 寮務主事室B | | 24 | 金 | 寮務主事室E | | 24 | 月 | 外部委託 | |
| 25 | 金 | 寮務主事室E | | 25 | 月 | 寮務主事室A | | 25 | 水 | (昼食なし) | | 25 | 土 | 外部委託 | | 25 | 火 | 寮務主事室B | |
| 26 | 土 | 外部委託 | | 26 | 火 | 寮務主事室B | | 26 | 木 | | | 26 | 日 | 外部委託 | | 26 | 水 | 寮務主事室C | |
| 27 | 日 | 外部委託 | | 27 | 水 | 寮務主事室C | | 27 | 金 | | | 27 | 月 | 寮務主事室A | | 27 | 木 | 寮務主事室D | |
| 28 | 月 | 寮務主事室A | | 28 | 木 | 寮務主事室D | | 28 | 土 | | | 28 | 火 | 寮務主事室B | | 28 | 金 | 寮務主事室E | |
| 29 | 火 | 寮務主事室B | | 29 | 金 | 寮務主事室E | | 29 | 日 | | | 29 | 水 | 寮務主事室C | | 29 | 土 | 主事室指定 外部委託 | |
| 30 | 水 | 寮務主事室C | | 30 | 土 | 外部委託 | | 30 | 月 | | | 30 | 木 | 寮務主事室D | | 卒業生退寮等 | | | |
| 31 | 木 | 寮務主事室D | | | | | | 31 | 火 | | | 31 | 金 | 寮務主事室E | | | | | |

主事指定2名 主事指定 平日宿直 休日宿直
4連休以上宿直 休業日(委託) 主事指定+委託 閉寮日
※日直欄の小文字は昼食検査者
主事指定2名 主事指定 平日宿直 休日宿直
4連休以上宿直 休業日(委託) 主事指定+委託 閉寮日
※日直欄の小文字は昼食検査者

令和元年12月13日(金)

令和元年度 外部評価委員会 中島寮務主事



4. 財務基盤及び管理運営



4-1-①各5年の財務状況（学校要覧:41頁）

収入：運営費交付金、施設整備費補助金、授業料収入、産学連携等収入、
寄付金収入等

（H30は353,379千円）

支出：教育研究費、一般管理費、施設整備費、産学連携等研究費、寄付金
事業費、人件費等

（H30は356,388千円）

※適切に実施。

4-1-②収支に係る方針、計画等を策定

- 1) 校長のリーダーシップのもと予算申請・査定を厳格に行い、透明性・公平性を確保した予算編成。
- 2) また、科研費等外部研究資金の申請・採択状況、共同研究・受託研究の受入状況等の評価結果や、決算結果（予算執行状況）を予算配分に反映。
- 3) 本校の機能強化への貢献等に対するインセンティブ付与や若手・女性研究者への重点支援を行うなど戦略的な予算配分を実施
- 4) 予備費、追加配分において校長ガバナンスの強化を図るとともに、全教職員を対象に予算獲得への意識改革を図る。

4-1-③資源配分にかかる審議体制

< 審議過程 >

- ①各部署に対して、本校の運営方針に基づいた予算化要望書を作成。
- ②ヒアリングを行い、それに基づく予算案を作成。
- ③上記予算案に基づき、予算委員会の審議を経て、決定。
- ④各学科、事務部各課（全教職員）に結果を周知。

4-1-④ 財務状況の公表と監査

- 1) 財務の収支について、学校要覧の中で公開（再掲）
- 2) 監査について、機構本部が作成している「公的研究費に関する内部監査マニュアル」及び久留米工業高等専門学校会計監査実施規則に基づき、監査を実施。

①管理運営の諸規程の整備、校長、主事等の役割 分担の見直し

2019) 令和2年1月にホームページ
に公開予定。

28年度に委員会等の組織改革を行い、29年度から新しい組織

4-2-①1)

H28以前) →兼務無し (H29以降)
15時30分に終わる水曜日を会議日

4-2-①2)

4-2-①3))

② 危機管理マニュアル等を整備

2018)

-2-② 1) 危機管理マニュアル)

-2-② 2) 体制図)

③ 外部資金獲得のための積極的取組、監査体制

H30年度)
H31年4月15日答申
:4-2-(③)

500万円以上) へのグループ申請インセンティブ

A判定, B判定への予算的補助インセンティブ (新規に拡充)

④ 外部の教育・研究資源の活用

36頁)

15件、奨学寄附金による研究9件
10件

29年度より毎年申請し、採択
4万円/人 (H29) → 4.8万円/人 (R1)

4万円/人

8万円/人に増額

37~38頁)

9高専連携事業 (H24~H28) を嚆矢に受入を開始
20名程度

4件)

JASSO協定受入が平成27年度より採択

26年度から28年度を除いて毎年採択

④ 外部の教育・研究資源の活用（つづき）

-高専連携教育プログラムの構築

30年度の文部科学省「大学と高専との連携教育プログラム」構築支援事業において「九州大学-久留米高専間の連携教育プログラム」が採択

3年度九州大学工学部改組に伴う新学科新設に関連する「連携教育プログラム」であり、プログラム履修対象は令和5年度専攻科入学者となる。

-久留米高専にて継続構築中

9高専10キャンパスとともに構築を予定

⑤ 本校のFD／SDの取組

FDの実施

2回) の実施。機構本部で実施する教員向け各種
研修に参加。

SDの実施

2018をS D元年とし、四半期に1回程度)

2019)

2019)

2019)

2019)



学校教育研究活動の発信

2019) 令和2年1月にホームページに公開予定。

(再掲：4-2-①1)

2019)

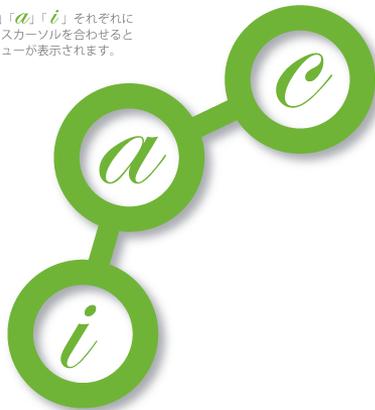


「地域貢献活動等の状況」について

(選択的評価B)

久留米工業高等専門学校 産学民連携テクノセンターは、地域との様々な形態での連携を重視し、その拡充整備を図っております。

「e」「a」「i」それぞれに
マウスカーソルを合わせると
メニューが表示されます。



久留米工業高等専門学校
産学民連携テクノセンター
Regional Collaboration Technology Center

産学民連携テクノセンター長
中武 靖仁

| NEWS | 新着情報一覧 |
|------------|---|
| 2019年3月30日 | 【新着情報】 独立行政法人国立高等専門学校機構の産学連携活動における間接経費の見直しについて |
| 2019年3月30日 | 【新着情報】 独立行政法人国立高等専門学校機構へ |
| EVENT | イベント情報一覧 |
| 2019年9月 3日 | 【公開講座】 令和元年度社会人向け公開講座『3D-CAD/CAE(材料力学)講座』を開催します |
| 2019年9月 3日 | 【公開講座】 令和元年度社会人向け公開講座『3D-CAD/CAE(熱流体)講座』を開催します |

独立行政法人国立高等専門学校機構
久留米工業高等専門学校 産学民連携テクノセンター
〒830-8555 福岡県久留米市小森野1丁目1-1
(TEL)0942-35-9333・0942-35-9347 (FAX)0942-35-9307

研究者・シーズ検索

メールでのお問い合わせはこちら

お問い合わせフォームへ

- ホーム
- お問い合わせ
- このサイトについて
- リンク集
- プライバシーポリシー
- ご利用規約
- サイトマップ
- 新着情報
- イベント情報

- イベントのご案内
- 公開講座
- フォーラム
- 市民公開講座
- テクノネット久留米セミナー
- 小中学生向けイベント
- センター概要
- 組織
- トピックス

- 産学連携
- 受託研究
- 共同研究
- 奨学金助金
- 技術相談
- テクノネット久留米
- テクノネット久留米の概要
- 会則・入会・退会
- テクノネット久留米会員一覧
- 研究者情報・研究シーズ一覧
- 研究者情報・研究シーズ検索



久留米工業高等専門学校
産学民連携テクノセンター
Regional Collaboration Technology Center

令和元年12月13日(金)

選B 地域貢献活動等の状況

高等専門学校地域貢献活動等に関する目的等に照らして、地域貢献活動が適切に行われ、活動の成果が認められていること。

- B-1-① 地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。
 (1) 地域貢献活動等に関する目的、基本方針、**目標等を適切に定めているか。**
- B-1-② 地域貢献活動等の目的等に照らして、活動が計画的に実施されているか。
 (1) 学校が設定した地域貢献活動等について、具体的な**方針を策定しているか。**
 (2) (1)の方針に基づき**計画的に実施しているか。**
- B-1-③ 地域貢献活動等の実績や活動参加者等の満足度等から判断して、目的に沿った活動の成果が認められるか。
 (1)学校が設定した地域貢献活動等の目的等に照らして、**成果が認められるか。**
- B-1-④ 地域貢献活動等に関する問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。
 (1)観点B-1-③で把握した成果を基に問題点等を把握し、それを改善に結び付けるための**体制を整備しているか。**



B-1-① 地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。

(1) 地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等を適切に定めているか。

産学民連携テクノセンターのミッション

■ 地域産業界・民間企業との連携

共同研究・受託研究・技術相談等の多様な連携制度により、民間企業等の研究内容・テーマ及びニーズに対応しています。また地域社会・産業界との協力体制を堅実なものとし、一層緊密な連携を図ります。

■ 地域の行政・公設機関との連携

本校の教育・研究資源を広く解放し、地域社会における生涯教育の一環として、各種公開講座を開設しています。また特色ある地域の課題に対して協働で取り組みます。

B-1-②地域貢献活動等の目的等に照らして、活動が計画的に実施されているか。

(1) 学校が設定した地域貢献活動等について、具体的な**方針を策定**しているか。

(2) (1)の方針に基づき**計画的に実施**しているか。

1. 地域産業界・民間企業との連携

テクノネット久留米企業説明会



久留米高専の技術振興会で、福岡県、佐賀県に本社・支社を置く約80の会員企業からなるテクノネット久留米が企業説明会を開催します。地元にはどんな企業があるか、企業の方から直接話を聞き、今後の進路選択の一助にしてください。(学生のスーツ着用は不要です。)

主催 テクノネット久留米
共催 久留米高専キャリア支援室、産学民連携テクノセンター
開催日 平成31年3月5日(火)
時間 13時30分～15時30分(受付13時開始)
場所 ウェーブホール

「第5回しんきん合同商談会」
11月7日(木)

テクノネット久留米講演会
7月5日(金)



「久留米・鳥栖地域産学官
テクノ交流会」10月29日(火)



B-1-②地域貢献活動等の目的等に照らして、活動が計画的に実施されているか。

(1) 学校が設定した地域貢献活動等について、**具体的な方針を策定**しているか。

(2) (1)の方針に基づき**計画的に実施**しているか。

2. 地域の行政・公設機関との連携

社会人向け公開講座
『3D-CAD/CAE(材料力学)講座』
11月28日(木)

社会人向け公開講座
『3D-CAD/CAE(熱流体)講座』
12月11日(水)

産総研九州センター
一般公開において、ロボットの実演
6月29日(土)

Computer Aided Design 2019 3D-CAD/CAE (材料力学) 講座 令和元年度 社会人向け公開講座 久留米工業高等専門学校

CAEとはコンピュータを使った解析のことです。3D-CADで作成したモデルを解析して構造的なシミュレーションを行うことにより、製品の設計支援の効率化やコスト削減の向上、コスト削減が望めるもので、本講座では、3D-CADの活用事例としてのCAEを取り上げます。

1. 講座概要
基礎的な材料力学の理論や応用の理解や応力-ひずみ関係について、3D-CADで作成したモデルの構造解析をCAEシミュレーションソフト(SolidWorks Simulation)を用いて学びます。実物、卒業生実習ソフトウェア(MARGUMENT)を使用して、基礎的構造解析事例のプレゼンテーションや解説実習を行います。
2. 開催日時
令和元年 11月28日(木) 10:00-18:00
3. 主催
久留米工業高等専門学校 機械工学科
共催
日本設計工学学会九州支部
日本機械学会九州支部
4. 対象者
久留米工業高等専門学校
卒業生(社会人)一般
5. 費用
受講料 1,000円(税込) 別途申し込みが必要
※ 参加費無料、人数超過した場合は別途申し込みが必要となります。ご了承ください。
6. 申込先
TEL:0942-35-4000
7. 申込方法
下記にて申込み。
申込み締切は下記(日)にございます。
8. 申込期間
10/15(水)～11/1(金)
9. 申込先
〒830-8555 久留米市小森野1-1-1
久留米工業高等専門学校 総務課 総務係
TEL:0942-35-9420
FAX:0942-35-9070

3D-CADを中心としたデジタル、エンジニアリングの全体像を把握したい方、さらには企業での就業的な必要となる技術方法について学びたい方、
参加の希望の参加者をお待ちしています。

<http://www.kurume-nct.ac.jp/RCTC/citizen/kousai.html>

Computer Aided Design 2019 3D-CAD/CAE (熱流体) 講座 令和元年度 社会人向け公開講座 久留米工業高等専門学校

CAEとはコンピュータを使った解析のことです。3D-CADで作成したモデルを解析して構造的なシミュレーションを行うことにより、製品の設計支援の効率化やコスト削減の向上、コスト削減が望めるもので、本講座では、3D-CADの活用事例としてのCAEを取り上げます。

1. 講座日時
令和元年 12月11日(水) 10:00-18:00
2. 主催
久留米工業高等専門学校 機械工学科
共催
日本設計工学学会九州支部
日本機械学会九州支部
3. 対象者
久留米工業高等専門学校
卒業生(社会人)一般
4. 費用
受講料 1,000円(税込) 別途申し込みが必要
※ 参加費無料、人数超過した場合は別途申し込みが必要となります。ご了承ください。
5. 申込先
TEL:0942-35-4000
6. 申込方法
下記にて申込み。
申込み締切は下記(日)にございます。
7. 申込期間
10/15(水)～11/1(金)
8. 申込先
〒830-8555 久留米市小森野1-1-1
久留米工業高等専門学校 総務課 総務係
TEL:0942-35-9420
FAX:0942-35-9070

3D-CADを中心としたデジタル、エンジニアリングの全体像を把握したい方、さらには企業での就業的な必要となる技術方法について学びたい方、
参加の希望の参加者をお待ちしています。

<http://www.kurume-nct.ac.jp/RCTC/citizen/kousai.html>



産総研九州センター (未来の技術がいつばい)

一般公開

入場無料
2019年6月29日(土)
9:30-15:30
6月29日(土) 9:30-15:30

ナノエレクトロニクス研究部門
「手作りコンピューター 最初の一步」
電子回路制作にチャレンジ!

久留米工業高等専門学校ロボットコンテスト
「ロボット総値上げできる!」

ワイヤレスIoT in 鳥居 no eye
「スマートミーティングがしこく食べて健康維持」
鳥居 no eye 株式会社 鳥居 no eye 代表取締役 鳥居 隆雄
〒830-8555 久留米市小森野1-1-1 久留米工業高等専門学校 総務課 総務係
TEL:0942-35-9420 FAX:0942-35-9070

イベント内容の詳細は、産総研九州センターホームページまで (産総研九州センター)

1947-2012 産総研創設50周年 2021
国立研究開発法人 産総研九州センター 九州センター
TEL:0942-31-3606 FAX:0942-31-4008

<http://www.aist.go.jp/kyushu/>

計画的に実施

令和元年度 産学民連携テクノセンター活動予定・実績

赤字は前回からの変更点です。

令和元年11月30日 現在

| 区分 | NO | 名称 | 現状 | 実施時期 | 対象/人数 | 実施場所 | 担当者 | 主催団体等 | | |
|--------|----------------|------------------|--------------------------|-------------------------------------|---------------------|-----------------|------------------------|--------------------------------|--|---|
| 産業支援部門 | 大学・高専・研究機関との連携 | イベントへの参加 | 1 | イノベーション・ジャパン2019 | 済 | 8月29日(木)～30日(金) | 企業関係者等 | 東京ビッグサイト | 森園教授(材料システム工学科) 川上教授(材料システム工学科) 産学民連携テクノセンター(川村) | JST・NEDO |
| | | | 2 | 久留米・鳥栖地域産学官テクノ交流会 | 済 | 10月29日(火) | 企業関係者等 | 久留米リサーチ・パーク | 産学民連携テクノセンター(中武、吉田) | 久留米リサーチ・パーク |
| | | | 3 | 第5回しんきん合同商談会「産学官連携・経営相談会」 | 済 | 11月7日(木) | 企業関係者等 | マリンメッセ福岡 | 産学民連携テクノセンター(中武、渡邊、吉田) | 一般社団法人九州北部信用金庫協会 |
| | | | 4 | 第25回高専シンポジウム in kurume | 対応中 | 1月25日(土) | 全国高専・大学教職員、学生、企業関係者等 | 久留米シティプラザ | 産学民連携テクノセンター | 高専シンポジウム協議会(久留米高専) |
| | | コンソーシアム久留米 | 5 | 久留米市内5大学連携による共同講義(市民公開型)「久留米の和算」 | 済 | 10月18日(金) | 学生・一般市民等 | くるめりあ六ツ門 | 松田特任教授(一般科目(理科系)) | 高等教育コンソーシアム久留米 |
| | | | 6 | 久留米市内5大学連携による共同講義(市民公開型)「話す」トレーニング」 | 済 | 10月25日(金) | 学生・一般市民等 | くるめりあ六ツ門 | 横溝准教授(一般科目(文科系)) | 高等教育コンソーシアム久留米 |
| | | | 7 | 久留米市内5大学連携オープンキャンパスへ学生によるこども向け講座～ | 済 | 11月23日(土) | 小中高校生・一般市民等 | くるめりあ六ツ門 | 渡邊准教授(生物応用化学科) 世利総務課長 | 高等教育コンソーシアム久留米 |
| | | | 8 | 青少年のためのサイエンスモール in くるめ 2019 | 対応中 | 12月14日(土) | 小中高校生・一般市民等 | 福岡県青少年科学館 | 越地教授(電気電子工学科) 松田特任教授(一般科目(理科系)) | 高等教育コンソーシアム久留米 |
| | 地域社会との連携 | テクノネット久留米 | 9 | テクノネット久留米講演会 | 済 | 7月5日(金) | テクノネット久留米会員、学生、教職員/77名 | 久留米高専 | 産学民連携テクノセンター | テクノネット久留米 |
| | | | 10 | テクノネット久留米定時総会 | 済 | 11月1日(金) | テクノネット久留米会員、教職員50名 | ハynesホテル久留米 | 産学民連携テクノセンター | テクノネット久留米 |
| | | | 11 | 九州沖縄地区高専技術振興会サミットin KURUME | 済 | 10月19日(土) | 九州沖縄高専技術振興会会員150名 | 久留米シティプラザ | 産学民連携テクノセンター | 各高専技術振興会 第5ブロックブロック 研究推進ボード 高専機構研究推進・産学連携 |
| | 地域連携部門 | 科学技術展示・イベント等への参加 | 12 | 産総研九州センター一般公開 | 済 | 6月29日(土) | 一般市民等 | 産業技術総合研究所九州センター | 南山准教授(機械工学科) ロボットコンテスト部 | 国立研究開発法人産業技術総合研究所九州センター |
| | | | 13 | Dr. プンプン(子ども科学部) | 済 | 11月10日(日) | 一般市民等/20名 | 久留米シティプラザ 東町公園 ほとめき通り商店街 | 黒木教授(制御情報工学科) | Dr. プンプン実行委員会 株式会社ハイマート久留米 |
| | | | 14 | えーるピア親子科学教室 | 済 | 8月2日(金) | 久留米市小学生及び父兄/20名 | えーるびあ久留米 | 渡邊准教授(生物応用化学科) | 久留米市生涯学習センター |
| | | | 15 | ふれあい理工学展 | 済 | 11月10日(日) | 一般市民等200名 | えーるびあ久留米 | 機械工学科、生物応用化学科、一般科目(理科系)、総務係 | 久留米生涯学習推進市民協会、久留米市子ども会連合会、久留米市、久留米市教育委員会 |
| | | 16 | ワークショップコレクション in 福岡 2020 | 対応中 | 令和2年3月14日(土)、15日(日) | 一般市民等 | 九州大学伊都キャンパス | 教育研究支援センター | 久留米工業高等専門学校 株式会社クリエイト | |

計画的に実施

| | | | | | | | | | | |
|--------|--------------|-------------------|----|--|-----|-----------------------------------|---------------------|--------|------------------------------|--|
| 地域連携部門 | 地域の教育機関との連携 | (ものづくり工作教室活動) | 17 | 小中学生向け公開講座 「化学への招待 ―楽しい生物・化学教室―」 | 済 | 8月9日(金) | 小学5・6年生、中学1・2年生/25名 | 久留米高専 | 生物応用化学科教員 教育研究支援センター職員 | (後援)久留米学術研究都市づくり推進協議会(予定) |
| | | | 18 | 中学生向け公開講座 「青銅鏡を作製しよう!」 | 済 | 8月10日(土) | 中学生/13名 | 久留米高専 | 材料システム工学科教員 教育研究支援センター職員 | (共催)日本金属学会九州支部 (後援)日本鉄鋼協会九州支部 (後援)日本鑄造工学会九州支部 (後援)久留米学術研究都市づくり推進協議会(予定) |
| | | | 19 | 中学生向け公開講座 「ソーラーカーを作ろう!」 | 済 | 8月19日(月) | 中学生/15名 | 久留米高専 | 機械工学科教員 | (後援)日本機械学会九州支部 |
| | | | 20 | 中学生向け公開講座 「IchigoJamを使ったIoT入門」 | 済 | 8月24日(土) | 中学生/8名 | 久留米高専 | 制御情報工学科教員 | (後援)久留米学術研究都市づくり推進協議会 (後援)久留米市教育委員会 (後援)鳥栖市教育委員会 いずれも予定 |
| | | | 21 | 中学生向け公開講座 「あなたも一日サイエンティスト(数学講座)」 | 済 | 9月7日(土) | 中学生/19名 | 久留米高専 | 一般科目理科系教員 | (後援)久留米学術研究都市づくり推進協議会(予定) |
| | | | 22 | 中学生向け公開講座 「エレクトロニクススクール ライトレースカーを作ろう」 | 予定 | 3月25日(水) | 中学1,2年/20名 | 久留米高専 | 電気電子工学科教員 | (共催)九州パワーアカデミー (後援)久留米学術研究都市づくり推進協議会(予定) |
| 人材育成部門 | 社会人教育、人材育成講座 | 企業等対象公開講座・技術セミナー等 | 23 | JGMAギヤカレッジ(歯車技術講座)「基礎実習」 | 済 | 9月5日(木)、9月6日(金) | 社会人/28名 | 久留米高専 | 石丸教授、和泉教授(機械工学科)、教育研究支援センター | 日本歯車工業会 |
| | | | 24 | 第7回ゴムの実践技術講座(実習) | 済 | 8月27日(火)~30日(金) 28日(水)は豪雨により中止 | 社会人・学生/5名 | 久留米高専 | 渡邊准教授(生物応用化学科) 教育研究支援センター | 日本ゴム協会九州支部 |
| | | | 25 | 社会人向け公開講座 「3D-CAD基礎講座」 | 済 | 8月29日(木) 28日(水)は豪雨により中止 | 社会人/18名 | 久留米高専 | 機械工学科教員 | (主催)久留米高専 (共催)日本機械学会九州支部 (共催)日本設計工学会九州支部 |
| | | | 26 | 社会人向け公開講座 「3D-CAD/CAE(材料力学)講座」 | 済 | 11月28日(木) | 社会人/8名 | 久留米高専 | 機械工学科教員 | (主催)久留米高専 (共催)日本機械学会九州支部 (共催)日本設計工学会九州支部 |
| | | | 27 | 社会人向け公開講座 「3D-CAD/CAE(熱流体)講座」 | 予定 | 12月11日(水) | 社会人/2名 | 久留米高専 | 機械工学科教員 | (主催)久留米高専 (共催)日本機械学会九州支部 (共催)日本設計工学会九州支部 |
| 知的財産部門 | 知的財産支援 | 各種団体 | 28 | 日本弁理士会九州支部との交流会 | | 1月下旬 | 高専・弁理士会関係者 | 未定 | 産学民連携テクノセンター | 九州・沖縄地区高等専門学校 日本弁理士会九州支部 |
| | | | 29 | 高専ハカセ塾 | 対応中 | 6月8日(土)~3月7日(土) | 小中学生 | 久留米高専他 | 産学民連携テクノセンター | JST・有明高専 |

令和元年12月13日(金)

令和元年度 外部評価委員会 中武テクノセンター長



独立行政法人国立高等専門学校機構
久留米工業高等専門学校

計画的に実施

令和元年度公開講座計画表

| | | | | | | | | | | | | | 令和元年12月3日現在 |
|---------------|------|--|--|--|--|--------------------------------------|--|---------------|---------------|--------|-------|----|-------------|
| NO+B4: M12 | 学科等 | 講座名 | 開講日時 | 開講場所 | 募集対象及び定員 | 受講料 | 申込期間 | 必要経費 (実行額) | 必要経費 (見込額) | H31見込額 | H30実績 | 備考 | |
| 1 | 機械 | 社会人向け公開講座 「3D-CAD基礎講座」 | 8月28日(水)、29日(木) 10:00~16:00 (受付開始9:30) ⇒大雨の影響により28日は中止。 | 図書館 2階 L3教室 | 社会人(一般企業及び工業高校教員)及び日本設計工学会・日本機械学会会員 20名 ⇒参加者18名 | 大雨の影響により1日中止となったため7,400円から6,400円に変更。 | 7月16日(火) ~8月1日(木) | | | | | | |
| 2 | 機械 | 社会人向け公開講座 「3D-CAD/CAE(材料力学)講座」 | 11月28日(木) 10:00~16:00 (受付開始9:30) | 図書館 2階 L3教室およびL1教室 | 社会人(一般企業及び工業高校教員)及び日本設計工学会・日本機械学会会員 20名 ⇒参加者8名 | 6,400円 | 10月15日(火) ~11月1日(金) | | | | | | |
| 3 | 機械 | 社会人向け公開講座 「3D-CAD/CAE(熱流体)講座」 | 12月11日(水) 10:00~16:00 (受付開始9:30) | 図書館 2階 L3教室 | 社会人(一般企業及び工業高校教員)及び日本設計工学会・日本機械学会会員 20名 ⇒参加者2名 | 6,400円 | 10月15日(火) ~11月1日(金) | | | | | | |
| 4 | 機械 | 中学生向け公開講座 「ソーラーカーを作ろう！」 | 8月19日(月) 9:30~16:30 (受付開始9:00) | 久留米工業高等専門学校 機械要素設計実験室 | 中学生 16名 ⇒参加者15名 | 無料 (別途、参加者負担による民間保険に加入させることを希望) | 7月1日(月) ~7月19日(金) | | | | | | |
| 5 | 電気 | 中学生向け公開講座 「エレクトロニクススクール ライトレースカーを作ろう」 | H32年3月25日(水) 10:00~17:00 (受付開始9:30) | 電気電子・制御情報工学科棟3階 総合実験室 ものづくり教育センター 電気機器・自然エネルギー実験室 | 中学1・2年生 20名 | 無料 (別途、参加者負担による民間保険に加入させることを希望) | H32年2月17日(月) ~2月27日(木) FAXまたは郵送 応募者多数の場合は抽選 | | | | | | |
| 6 | 制御 | 中学生向け公開講座 「IchigoJamを使ったIoT入門」 | 8月24日(土) 10:00~15:00 (受付開始9:30) | メカトロニクスデザイン室 | 中学生 10名 ⇒参加者8名 | 無料 | 7月1日(月) ~7月19日(金) | | | | | | |
| 7 | 生化 | 小中学生向け公開講座 「化学への招待 ―楽しい生物・化学教室―」 | 8月9日(金) 14:00~17:00 (受付開始13:30) | 生物応用化学科棟 C1教室 生物化学実験棟 | 小学5・6年生、中学1・2年生 25名 ⇒参加者25名 | 無料 | 7月1日(月) ~7月19日(金) | | | | | | |
| 8 | 材料 | 中学生向け公開講座 「青銅鏡を作製しよう！」 | 8月10日(土) 10:00~16:00 (受付開始9:30) | 機械材料工学科棟3F材料評価実験室 材料実習棟材料工学実験室 鑄造実習室 | 中学生 15名 ⇒参加者13名 | 無料 (別途、参加者負担による民間保険に加入させることを希望) | 7月1日(月) ~7月19日(金) | | | | | | |
| 9 | 一般理科 | 中学生向け公開講座 「あなたも一日サイエンティスト(数学講座)」 | 9月7日(土) 10:00~15:00 (受付開始9:30) | 産学民連携テクノセンターT2教室 | 中学生 20名 ⇒参加者19名 | 無料 | 7月1日(月) ~7月19日(金) | | | | | | |

B-1-③地域貢献活動等の実績や活動参加者等の満足度等から判断して、目的に沿った活動の成果が認められるか。

(1)学校が設定した地域貢献活動等の目的等に照らして、**成果が認められるか。**

久留米市内5大学等連携による「オープンキャンパス～学生によるこども向け講座～」に出展 11月23日(土)
…久留米高専のブースにもたくさんの親子連れに会場面白実験の効果もあってかブースには常に人が訪れ大盛況… 本校HPより

「第24回マナビイランド」に出展 11月10日(日)
…小中学生を中心とした一般市民に、理工学への関心を深めてもらうことを目的として「ふれあい理工学展」と題して毎年出展 理工学に興味・関心を持つ多くの小中学生が集まる… 本校HPより

令和元年度 第13回「高専ハカセ塾」を開催 11月3日(日)
…各学科それぞれの特徴を生かした内容に、みんな興味津々の様子でした。 本校HPより



B-1-④地域貢献活動等に関する問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。

(1)観点B-1-③で把握した成果を基に問題点等を把握し、それを改善に結び付けるための体制を整備しているか。

産学民連携テクノセンター ホーム > 学校関係のみなさま > 組織

組織

センターの組織

センターの組織図

■ 地域連携部門

地域の企業や社会人・一般市民向けの公開講座・フォーラム等を行います。

■ 産業支援部門

共同研究・受託研究・技術相談等、センターと企業との産学連携活動を積極的に行います。

■ 人材教育部門

地域の小学生・中学生・高校生に対する出前授業、公開講座の理科教育支援や教員向け実技講習会を行います。また、科学への関心を高めるための、公開実験など各種イベントを行います。

■ 知的財産部門

本校の特許や研究シーズを積極的にアピールして行きます。また、企業向けの知財に関するセミナーなどを行います。

センタースタッフ2019

- 産学民連携テクノセンター長 中武靖仁
- 産業支援部門マネージャー 渡邊勝宏
- 知的財産部門マネージャー 黒飛 敬
- 地域支援部門マネージャー 富永洋一
- 人材教育部門マネージャー 徳山 徹
- 事務担当 (窓口) 総務課研究推進係 (担当 吉田・川村産学民連携テクノセンター窓口)
(総務課研究推進係)

地域の教育機関との連携

- ・科学技術展示・イベント等への参加
- ・こども工作教室
(ものづくり支援活動)

大学・高専・研究機関との連携

- ・イベントへの参加
- ・コンソーシアム久留米

地域社会との連携

- ・テクノネット久留米

社会人教育、人材育成講座

- ・企業等対象公開講座・技術セミナー等

各種団体の知的財産支援

- ・日本弁理士会九州支部

小中理科教育

- ・高専ハカセ塾  独立行政法人国立高等専門学校機構
久留米工業高等専門学校

「地域貢献活動等の状況」について

(選択的評価 **B**)

目的の達成状況の判断

目的の達成状況が非常に優れている